保健科教育法Ⅰ（77101）

前期

Teaching Methods of Health Education, I

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 17 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健科教育法Iでは、中学校・高等学校の「保健」を学ぶにあたって学校における保健（健康）教育の意味・意義について理解し、子どもたちの科学的認識と実践的能力をどのように育成していくか学習することを目的とします。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述します。

到達目標

（１）保健科の目標及び内容

一般目標： 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１） 学習指導要領における保健科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２） 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３） 保健科の学習評価の考え方を理解している。

４） 保健科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５） 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）保健科の指導方法と授業設計

一般目標： 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１） 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２） 保健科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３） 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４） 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５） 保健科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）（到達目標１）および定期試験（70%）（到達目標１・２）により評価する。

合計点60点以上を合格とする

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	保健（健康）教育の変遷
第3回	学校における保健（健康）教育の目標と意義
第4回	保健と体育、学習指導要領総則、他教科、特別活動などとの関連
第5回	わが国の健康のすがたとその考え方（１）理論
第6回	わが国の健康のすがたとその考え方（２）授業づくりの考え方
第7回	飲酒と健康（１）理論

回数	内容
第8回	飲酒と健康（２）授業づくりの考え方
第9回	喫煙と健康（１）理論
第10回	喫煙と健康（２）授業づくりの考え方
第11回	薬物乱用と健康（１）理論
第12回	薬物乱用と健康（２）授業づくりの考え方
第13回	感染症・エイズとその予防（１）理論
第14回	感染症・エイズとその予防（２）授業づくりの考え方
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

情報科教育法Ⅰ（77102）

前期

Method of Teaching Information Technology　Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K
単位数	２．０単位
担当教員	梶浦文夫

授業の概要

高等学校「情報」の目標や内容について、広く学ぶ。教科の内容である「情報機器を活用した情報の収集、処理、発信」、「情報の科学的理解」、「情報社会に参加する態度」などについて学ぶとともに、どのように学習指導すべきかを模擬授業などを通じて理解させる。

到達目標

全体目標：情報科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された情報科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

（１）情報科の目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された情報科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における情報科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）情報科の学習評価の考え方を理解している。
４）情報科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）情報科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）情報科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

レポートおよび学習指導案３０％（到達目標（１）および（２））、模擬授業３０％（到達目標（２））、定期試験４０％（到達目標（１）および（２））で総合的に評価する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。
自らが教壇に立って授業をするという意識を持って臨んでください。

授業計画

1週目：講義の目的、特徴、注意点などについての説明
2週目：普通教科「情報」および専門教科「情報」の目標と内容
3週目：情報とメディア１　情報通信技術の発達、情報の特長
4週目：情報とメディア２　インターネットでの情報検索法、メディアとは
5週目：板書中心の授業計画（１）「情報とメディア」
6週目：板書による説明の練習「情報とメディア」
7週目：情報社会と情報モラル１　情報社会の問題点、情報セキュリティ
8週目：情報社会と情報モラル２　情報社会における法と個人の責任

9週目：板書中心の授業計画（２）「情報社会と情報モラル」
10週目：板書による説明の練習「情報社会と情報モラル」
11週目：ディジタル情報と情報の活用１　アナログとディジタル、コンピュータのしくみ
12週目：ディジタル情報と情報の活用２　情報のディジタル表現、情報の表現と伝達
13週目：板書中心の授業計画（３）「ディジタル情報と情報の活用」
14週目：板書による説明の練習「ディジタル情報と情報の活用」
15週目：総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
講義の性質上、模擬授業など学生が高校教師役となって授業を行う機会が多い。模擬授業の前に、下調べ、指導案の準備、板書計画などをしておく必要がある。 また、授業案は模擬授業の結果を見て何度も何度も改善していくべきものなので、講義の後には指摘された授業案を手直ししなければならない。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。授業中に適宜資料を配布する。

参考書

書籍、Web サイトなど適宜講義中に紹介する。

備考

保健体育科教育法Ⅰ（77103）

前期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健体育」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健体育科教育法Iでは、小学校から高等学校まで必須教科としてすべての子どもたちに課せられている体育・保健体育の意味・意義について理解し、子どもに身体活動（運動・スポーツ）の必要性の理解と実践力をどのように育成していくかについての理論を学習します。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述します。

到達目標

（１）保健体育科の目標及び内容

一般目標： 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１） 学習指導要領における保健科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２） 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３） 保健体育科の学習評価の考え方を理解している。

４） 保健体育科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５） 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）保健体育科の指導方法と授業設計

一般目標： 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１） 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２） 保健体育科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３） 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４） 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５） 保健体育科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）（到達目標１）および定期試験（70%）（到達目標１・２）により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

保健体育科教育法Ⅰを履修した学生を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	体育教育の変遷
第3回	学校における体育教育の目標と意義
第4回	体育と保健、学習指導要領総則、他教科、特別活動などとの関連
第5回	体つくり運動（１）理論
第6回	体つくり運動（２）授業づくりの考え方

回数	内容
第7回	器械運動（１）理論
第8回	器械運動（２）授業づくりの考え方
第9回	陸上競技（１）理論
第10回	陸上競技（２）授業づくりの考え方
第11回	水泳（１）理論
第12回	水泳（２）授業づくりの考え方
第13回	球技（１）理論
第14回	球技（２）授業づくりの考え方
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

教育心理学（77104）

前期

Educational Psychology

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

学校現場での児童・生徒理解にとって必要と思われる基本的な理論・事項について学ぶ。また、教職に就こうと志す者にとっての自己洞察の場ともする。
・生徒を正確に理解するための技法・知識を身につける。
・適切な学級経営を行うための技法・知識を身につける。
・教育評価に関する技法・知識を身につける。

【フィードバック】単元ごとの小テスト返却時に解説・補足説明を行う。

【ＩＣＴを活用した双方向型授業】
本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程
一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
到達目標
1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（2）生徒の学習の過程
一般目標：生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
到達目標
1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
3）生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法

小テストと定期試験により総合的に評価する。評価は、単元ごとの小テスト（40%）（到達目標1・2）、定期試験（60%）（到達目標1・2）の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	教育心理学の意義、教育心理学の歴史的展開 予習：10－18ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：教育心理学の歴史的展開について研究者名とともに覚える。章末の演習問題（19-20ページ）を解く。

回数	内容
第2回	発達（1）発達を規定する要因、発達段階と発達課題、運動の発達 予習：22-30ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：遺伝説、環境説から相互作用説への発達観の変遷を理解する。刷り込み、マターナル・ディプリベーションなど、発達初期の重要性について理解する。次回の小テストの準備。
第3回	発達（2）言語能力の発達、知的能力の発達 予習：122-130ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：Piagetの発達段階について理解する。向社会的行動、道徳性の発達について理解する。章末の演習問題（138ページ）を解く。
第4回	発達（3）社会性の発達 予習：31-36、150-152、165-171ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：Eriksonの発達段階について理解する。青年期の心身発達の特徴を理解する。章末の演習問題（37-38、174-175ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第5回	パーソナリティと適応 予習：140-144、149-150ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：パーソナリティの定義および理論（類型論、特性論、構造論）、自我防衛機制について理解する。次回の小テストの準備。
第6回	パーソナリティの測定 予習：144-148、130-137ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：さまざまなパーソナリティ検査法について理解する。知能の構造、知能検査、知能偏差値等について理解する。章末の演習（153ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第7回	学級集団の理解と指導 予習：172-174、178-188ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：：集団の特性について理解するとともに、リーダーシップ論、教室で教師に求められる役割について理解する。ソシオメトリック・テストをはじめとした学級構造を理解する方法について理解する。児童生徒の発達にともなう構造変化を理解する。章末の演習（174-175、188-189ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第8回	学習（1）条件づけ、観察学習 予習：60-66ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習理論について理解する。学習理論の教育場面への応用について理解する。次回の小テストの準備。
第9回	学習（2）記憶の仕組みと記憶方略、問題解決 予習：66-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：記憶の分類と構造、問題解決について理解する。メタ記憶、メタ認知を教育場面と関連づけて理解する。章末の演習（74ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第10回	動機づけ、学習意欲 予習：40-57ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：動機づけの種類、自律的な学習の特徴・メカニズムについて理解する。章末の演習（58ページ）を解く。
第11回	学習指導（1）学習指導の理論 予習：76-83ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：プログラム学習、発見学習、有意味受容学習について理解する。
第12回	学習指導（2）協働的な学び・主体的な学び 予習：83-92ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：協同学習の意義と方法を理解する。主体的な学びを支援する方法について理解する。章末の演習問題（94-95ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第13回	教育評価 予習：98-119ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：教育評価の方法と長所・短所について理解する。研究法について理解する。教育場面で使われるさまざまな統計の式と意味を理解し、計算できるようにする。章末の演習問題（120ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第14回	子どもの不適応とストレス 予習：192-213ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：カウンセリング・マインドについて理解する。不適応と障害について理解する。いじめについて理解する。章末の演習問題（214ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第15回	障害児の心理 予習：216-231ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：ADHD、LD、広汎性発達障害の特徴と、支援のあり方について理解する。章末の演習問題（231-232ページ）を解く。

授業外学習

学習時間の目安：各回の授業計画に指示してある予習・復習・小テストへの準備で、各回4時間

予習：教科書の該当ページに目を通して概略を理解する。
復習：各単元の終了時点で小テストを行うので、用語、人名を正確に理解するとともに、概念間の関連性を明確に理解する。
　　教職課程資料室に設置してある教員採用試験の過去問題を解く。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学|桜井茂男|図書文化|978-4-8100-7690-5

参考書

適宜紹介する。

備考

教育行政学（77105）

前期

Educational Administration

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

学校での教育活動を支えるのは、教育行政制度の重要な役割である。こうした教育行政制度に関する基本的な制度や、それに対する様々な論者の理論について学ぶ。このことを通して、学校での教育活動がよりよくなるための教育行政の在り方を考えさせる。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
(1)教育に関する制度的事項
一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。
到達目標：
1)公教育の原理及び理念を理解している。
2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
4)教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

(2)学校と地域との連携
一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。
到達目標：
1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

(3)学校安全への対応
一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。
到達目標：
1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

評価方法

授業後に出す、予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）と、最終レポート（到達目標（１）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、最終レポート70%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①おそらく、教職教養のなかで最も難しい授業の一つであると考えられる（法や制度を扱うため）。日本国憲法や法学に関する基礎的な知識、戦後史に関する基礎的な知識が必須となるため、よく復習してから授業に臨むこと。

②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育行政学を学ぶ意義
第2回	誰が教育政策を作っているのか？
第3回	国と地方の教育政策形成システム
第4回	教育基本法と教育行政
第5回	一条校と義務教育
第6回	教育目的の法定
第7回	教育委員会制度の歴史と制度変更
第8回	教育委員会制度の現在と教育振興基本計画
第9回	義務教育費国庫負担制度
第10回	誰が教員の服務監督をするのか
第11回	学校選択制度
第12回	開かれた学校づくり
第13回	学校安全と教育行政
第14回	社会教育
第15回	教育改革の国際比較

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

勝野正章、藤本典裕編『改訂新版 教育行政学』2015年、学文社 978-4762024900

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。
②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）
③最終レポートの提出に関しては、PCを使用することが必須となる。
PCを使用できる環境を確保しておくこと。

理科教育法Ⅰ（77106）

前期

Method of Teaching Science Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 20 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	有岡達生

授業の概要

H29年に大幅改訂された新学習指導要領では、理科の目標が以下のように示された。
「自然の事物・現象に関わり、〈理科の見方・考え方〉を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な〈資質・能力〉を次の通り育成することをめざす。
(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する技能を身につけるようにする。
(2)観察・実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
(3)自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。」
とある。
　このことを踏まえて将来、中・高等学校の理科教員をめざす学生に対し、理科教育の課題や目標、観察・実験の留意点、評価、指導案の作成等の学習を通して、新学習指導要領が目指す教育の確実な実施に向けて、授業作りの理論と実践を解説する。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
（１） 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２） 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・単元毎に実施する小テスト　４０％（到達目標(1)(2)を評価）
・テーマ学習のレポート　３０％（到達目標（１）を評価）
・グループ毎の実習後の発表　３０％（到達目標(1)(2)を評価）
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須の科目なので、一定水準以上の学習成果を修めることが要求される。毎回の復習をし、しっかりとした目的意識を持って参加しよう。

授業計画

第１回：ガイダンス（シラバスを用いて各回の講義内容の説明、参考文献の紹介、事前アンケート、諸連絡等）
第２回：各種データから見る理科教育の現状と課題
第３回：新学習指導要領のポイント
第４回：新学習指導要領の目標である「理科の見方・考え方」「資質・能力」について
第５回：「学びに向かう力・人間性等」「思考力・判断力・表現力」と授業作り
第６回：身近な自然の教材を活用し、「科学的に探究する力と態度」を育てる授業作り

第７回：ICT機器の活用について
第８回：ICT機器を活用した授業作り（グループ活動を含む）
第９回：観察・実験を重視した授業の意義と指導法
第１０回：観察・実験授業における安全指導
第１１回：環境問題をテーマとした教材開発
第１２回：理科教育の法的根拠について（教員採用試験対策）
第１３回：指導案の書き方
第１４回：指導案の書き方（特に、評価についてグループ協議）
第１５回：身の回りの不思議を科学する（教材開発、グループ発表）
定期試験：実施しない

授業外学習

学習時間のめやす：合計６０時間
具体的な内容については、毎回の授業時に指示する。

教科書

教員採用試験 「教職教養らくらくマスター 2022」 資格試験研究会 1,320円 ISBN 9784788959408

参考書

「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」（最新版） 文部科学省
「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」（最新版） 文部科学省
授業において適宜プリントを配布する。

備考

教育行政学（77107）

前期

Educational Administration

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

学校での教育活動を支えるのは、教育行政制度の重要な役割である。こうした教育行政制度に関する基本的な制度や、それに対する様々な論者の理論について学ぶ。このことを通して、学校での教育活動がよりよくなるための教育行政の在り方を考えさせる。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
(1)教育に関する制度的事項
一般目標：現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。
到達目標：
1)公教育の原理及び理念を理解している。
2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。
3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。
4)教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。

(2)学校と地域との連携
一般目標：学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。
到達目標：
1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。
2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。

(3)学校安全への対応
一般目標：学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。
到達目標：
1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。
2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解している。

評価方法

授業後に出す、予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）と、最終レポート（到達目標（１）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、最終レポート70%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①おそらく、教職教養のなかで最も難しい授業の一つであると考えられる（法や制度を扱うため）。日本国憲法や法学に関する基礎的な知識、戦後史に関する基礎的な知識が必須となるため、よく復習してから授業に臨むこと。

②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育行政学を学ぶ意義
第2回	誰が教育政策を作っているのか？
第3回	国と地方の教育政策形成システム
第4回	教育基本法と教育行政
第5回	一条校と義務教育
第6回	教育目的の法定
第7回	教育委員会制度の歴史と制度変更
第8回	教育委員会制度の現在と教育振興基本計画
第9回	義務教育費国庫負担制度
第10回	誰が教員の服務監督をするのか
第11回	学校選択制度
第12回	開かれた学校づくり
第13回	学校安全と教育行政
第14回	社会教育
第15回	教育改革の国際比較

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

勝野正章、藤本典裕編『改訂新版 教育行政学』2015年、学文社 978-4762024900

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。
②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）
③最終レポートの提出に関しては、PCを使用することが必須となる。
PCを使用できる環境を確保しておくこと。

教職論（77151）

後期

Introduction to　Teaching Profession

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司 赤木恒雄

授業の概要

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての理解を深め、進路選択に資する教職の在り方を探求することにより、教職への一体感を形成することをねらいとしている。
具体的には、(1)教職の意義と重要性、（2）望ましい教師像、(3)教師に求められる力量、(4)養成→採用→研修のプロセスを通じての力量形成のあり方、(5)教育関連法令に基づいた教師の職務内容と服務、（6）チーム学校への対応を中心に論ずる。

【アクティブラーニング】一部のトピックでグループワークを行う
【フィードバック】課題レポートに対する講評を行う

到達目標

１．教職の意義
1）公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
2）進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

２．教員の役割
1）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。
2）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

３．教員の職務内容
1）生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。
2）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
3）教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

４．チーム学校への対応
1）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

評価方法

小テストまたは小レポート40%（到達目標1・2・3・4を評価）、課題レポート20%（到達目標1・2・3・4を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3・4を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

教育実習へ参加することを前提とした授業であるので、教職に対する理解と意欲的な態度や姿勢が求められる。安易な気持ちで受講しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	教職の意義－オリエンテーション－（小山）
第2回	教職の意義と重要性（小山）
第3回	望ましい教師像（小山）

回数	内容
第4回	教師に求められる力量（小山）
第5回	教師の養成教育と教員免許制度（赤木）
第6回	教員採用の方法と採用者数の動向（赤木）
第7回	教師の身分（赤木）
第8回	教師の職務（赤木）
第9回	学校の教職員組織（赤木）
第10回	教師の服務と分限・懲戒（赤木）
第11回	チーム学校への対応（赤木）
第12回	教師の研修と力量形成（小山）
第13回	教職生涯にわたる職能成長の必要性（小山）
第14回	めざせ教師への道—進路選択への指針—（小山）
第15回	レポート講評・総復習・まとめ （小山）

授業外学習

予習：教科書の該当ページおよび参考資料を読み、概要を把握しておく。
復習：授業開始時に定期的に小テストまたは小レポートを実施するので、前回の授業についてよく整理・理解しておく。
課題レポート（計2回）の作成に関する具体的な内容や方法については、授業中に詳しく説明する。
教師としての資質を向上させるよう、日頃から知識の獲得のみならず、教育観の形成など力量形成に努める。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

赤星晋作（編著）『新教職概論』学文社、2019年 ISBN-978-4-7620-2847-2

参考書

授業中に適宜資料を配布する。

備考

Google Classroomを基本ツールとして活用する。

保健科教育法Ⅱ（77152）

後期

Teaching Methods of Health Education, Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健科教育法IIでは、保健科教育法Iに引き続き、中学校・高等学校の「保健」を学ぶにあたって学校における保健（健康）教育の意味・意義について理解し、子どもたちの科学的認識と実践的能力をどのように育成していくか学習することを目的とします。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述するとともに、評価方法、実際の指導計画についても触れることとします。また、簡単な模擬授業も実施し、授業づくりの理解を深めていきます。

到達目標

（１）保健科の目標及び内容

一般目標： 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１） 学習指導要領における保健科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２） 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３） 保健科の学習評価の考え方を理解している。

４） 保健科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５） 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）保健科の指導方法と授業設計

一般目標： 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１） 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２） 保健科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３） 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４） 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５） 保健科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（20%）（到達目標１）、模擬授業（20%）（到達目標１・２）、定期試験（60%）（到達目標１・２）により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生活習慣病と日常の生活行動（１）理論
第3回	生活習慣病と日常の生活行動（２）授業づくりの考え方
第4回	心身機能の発達と心の健康（１）理論
第5回	心身機能の発達と心の健康（２）授業づくりの考え方
第6回	性を考える（１）理論

回数	内容
第7回	性を考える（２）授業づくりの考え方
第8回	保健の評価の考え方とその工夫
第9回	保健の指導計画
第10回	保健における教材作成（情報機器の活用を含む）
第11回	指導案作成
第12回	喫煙と健康の実践
第13回	飲酒と健康の実践
第14回	生活習慣病と日常の生活行動の実践
第15回	まとめ

授業外学習

毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。
さらに、授業の後半は模擬授業を行うため、指導案や配布資料の作成などの授業準備をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健体育科教育法Ⅱ（77153）

後期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	飯田智行

授業の概要

本講義は、中学校・高等学校「保健体育」の教員を目指す学生を対象として開講するものです。保健体育科教育法IIでは、保健体育科教育法Iに引き続き、小学校から高等学校まで必須教科としてすべての子どもたちに課せられている体育・保健体育の意味・意義について理解し、子どもに身体活動（運動・スポーツ）の必要性の理解と実践力をどのように育成していくかについて学習します。内容としては、学習指導要領に沿って各論的に講述するとともに安全指導、評価方法、実際の指導計画についても触れることとします。また、簡単な模擬授業も実施し、授業づくりの理解を深めていきます。

到達目標

（１）保健体育科の目標及び内容

一般目標： 学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１） 学習指導要領における保健科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２） 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３） 保健体育科の学習評価の考え方を理解している。

４） 保健体育科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５） 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）保健体育科の指導方法と授業設計

一般目標： 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１） 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２） 保健体育科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３） 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４） 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５） 保健体育科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢・小テスト（20%）（到達目標１）、模擬授業（20%）（到達目標１・２）および定期試験（60%）（到達目標１・２）により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教員免許取得を強く希望する学生の履修を望みます。

保健体育科教育法Ｉを履修した学生を望みます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	武道（１）理論
第3回	武道（２）授業づくりの考え方
第4回	ダンス（１）理論

回数	内容
第5回	ダンス（２）授業づくりの考え方
第6回	体育理論
第7回	体育授業における事故判例と安全指導
第8回	体育の評価の考え方とその工夫
第9回	体育の指導計画
第10回	体育における情報機器の活用
第11回	指導案の作成
第12回	体つくり運動の実践
第13回	陸上競技の実践
第14回	球技の実践
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
毎回の授業で、次回の授業内容を伝えるので、該当の教科書の範囲を読んでおくこと。
また、毎回の授業で前回の内容の小テストを実施するため、復習をしておくこと。
さらに、授業の後半は模擬授業を行うため、指導案や配布物の作成などの授業準備をしておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）
文部科学省 高等学校学習指導要領解説-保健体育編-（東山書房）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

保健体育科教育法Ⅳ（77154）

後期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	大家一

授業の概要

保健体育科教育法Ⅳでは、保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの応用として、教員採用試験における中学校・高等学校の「体育」の取り扱い方について知り、実際の問題を解くとともに解説を行います。

到達目標

（１）学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業への取り組む姿勢（４０％；到達目標1・2）、小テスト（６０％；到達目標1・2）により総合的に判定します。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	学習指導要領
第3回	体つくり運動、器械運動
第4回	陸上競技、水泳
第5回	球技（バレーボール、サッカー）
第6回	球技（バスケットボール、ハンドボール）
第7回	球技（テニス、卓球、バドミントン）
第8回	球技（ソフトボール）
第9回	武道、ダンス
第10回	総合演習（１）集団行動

回数	内容
第11回	総合演習（２）球技：バスケットボール、バレーボール、ハンドボール
第12回	総合演習（３）球技：卓球、バドミントン、テニス
第13回	総合演習（４）体つくり運動、器械運動、ダンス
第14回	総合演習（5）球技：サッカー、ソフトボール
第15回	総合まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

各競技種目についてカラーワイドスポーツなどを参考に基本技術、歴史、ルール、審判法などを予習すること。
各回の授業時に小テストを実施します。前回の授業についてよく復習しておくこと。

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説－保健体育編－（東山書房）978-4827815764
文部科学省 高等学校学習指導要領解説－保健体育編－（東山書房）978-4827815689
中学保健体育（学研） 978-4904811207
現代高等保健体育（大修館書店） 978-446966276478-44
アクティブスポーツ（総合版）2021（大修館書店）978-4469365702
（ただし、保健科教育法I・II・III、保健体育科教育法I・II・IIIを履修し、これらを持っている者は購入の必要はありません。）

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

教育課程論（77155）

後期

Theory of Curriculum and Teaching

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教育課程の編成は、教員が教育活動をする際に最も重要な職務の一つである。本授業では、教育課程編成にあたって重要な学習指導要領の内容の変遷や、教育課程編成の基本的な考え方、評価の仕方を学ぶ。この際、今般の学習指導要領の改訂で導入されたカリキュラム・マネジメントの意義を学生に考えさせる。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
(1)教育課程の意義
一般目標：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。
到達目標：
1)学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
2)学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

(2)教育課程の編成の方法
一般目標：教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
到達目標：
1)教育課程編成の基本原理を理解している。
2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

(3)カリキュラム・マネジメント
一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
到達目標：
1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

評価方法

授業後に出す予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）、中間レポート（到達目標（１）を評価）、定期試験（到達目標（１）～（３）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、中間レポート20%、定期試験50%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①教員免許状の申請に必要な科目であることから、授業のレベルを落とすことができない。

世界史・日本史・地理の基本的な知識（アメリカ合衆国、イギリスの位置、ＧＨＱくらいは知っておくこと）がなければ、履修しても授業についてこれないので、注意すること。
②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育課程論を学ぶ意義
第2回	教育課程の意義
第3回	教育課程の基本原理
第4回	教育課程の変遷（１）―第三次改訂まで―
第5回	教科書検定制度と教科書使用義務
第6回	教科書裁判
第7回	教育課程の変遷（２）―第四・五次改訂―
第8回	教育課程の変遷（３）―第六・七次改訂―
第9回	教育課程の変遷（４）－「確かな学力」と社会に開かれた教育課程－
第10回	ゆとり教育批判（１）－ゆとり世代とはだれか―
第11回	ゆとり教育批判（２）―学力低下論争―
第12回	カリキュラム・マネジメント
第13回	カリキュラム評価
第14回	国際学力調査とカリキュラム
第15回	よりよい教育をめざした教育課程編成に向けて

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

黒川雅子、小野まどか、坂田仰『ＪＳＣＰ双書　ＮＯ．４　【新訂版】教育課程論』2020年、教育開発研究所 978-4-86560-524-2

参考書

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』2017年。
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』2018年。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。
②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）
③中間レポートの作成にあたっては、PCが必須となるため、使用できる環境を準備しておくこと。

理科教育法Ⅱ（77156）

後期

Method of Teaching Science Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 20 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	有岡達生

授業の概要

理科教育法Ⅰを踏まえ、「理科の見方・考え方」をどのような場面で働かせると、児童・生徒にどのような「資質・能力」が育成されるのかについて、様々なALの紹介や具体的な授業実践を通して学習する。特に、この理科教育法Ⅱでは、受講生自身による観察や模擬授業の実践及び討論を通して、より実践的な授業力を身につける事をめざす。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ

（１）学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。

４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・テーマ毎のレポート及び小テスト　４０％（到達目標(1)(2)を評価）

・模擬授業を項目毎に（展開、ICT活用、発問、AL,振り返りect）チェック３０％（到達目標(2)を評価）

・模擬授業後の学生による相互評価及び研究協議における発言内容と頻度３０％（評価目標(1)(2)を評価）

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本教科は、教育職員免許状の申請に必須の科目であるため、一定水準以上の学習成果を修める事が要求される。しっかりとした目的意識を持って参加しよう。

授業計画

第１回：ガイダンス（シラバスを用い、各回の講義内容の説明、参考文献の紹介、諸連絡等）

第２回：理科教育の目標（育成すべき資質・能力等）

第３回：仮説を立てる力を育てる授業例（グループ学習）

第４回：フィールドワークの意義と重要性（身近な自然の教材の効果的な活用法について）

第５回：情報機器及び教材の効果的な活用法について（グループ学習を含む）

第６回：様々なAL(ジグソー法、KP法、反転授業、クイズ形式etc）について

第７回：理科の授業計画①（学習指導案についてグループ協議）

第８回：理科の授業計画②（評価についてグループ協議）

第９回：理科の授業計画③（情報機器及び教材の活用法についてグループ協議）

第１０回：理科の授業計画④（観察・実験における安全教育について事例研究）

第１１回：授業研究（授業見学）

第１２回：模擬授業①（物理・化学分野の模擬授業と研究協議）

第１３回：模擬授業②（生物・地学分野模擬授業と研究協議）
第１４回：模擬授業③（中学理科分野の模擬授業と研究協議）
第１５回：私がめざす理想の授業（模擬授業の総括）
定期試験：実施しない

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間
具体的な内容については、毎回の授業時に指示する。

教科書

「落とさない小論文」今道琢也著　1,650円　ダイヤモンド社　ISBN　9784478104354
各自が使用した高校時代の「化学基礎」or「生物基礎」の教科書

参考書

「高等学校学習指導要領解説　理科編　理数編」（最新版）　文部科学省
「中学校学習指導要領解説　理科編」（最新版）　文部科学省
「アクティブラーニング入門２」小林昭文　産業能率大学出版社

授業において適宜プリントを配布する。

備考

教育課程論（77157）

後期

Theory of Curriculum and Teaching

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教育課程の編成は、教員が教育活動をする際に最も重要な職務の一つである。本授業では、教育課程編成にあたって重要な学習指導要領の内容の変遷や、教育課程編成の基本的な考え方、評価の仕方を学ぶ。この際、今般の学習指導要領の改訂で導入されたカリキュラム・マネジメントの意義を学生に考えさせる。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
(1)教育課程の意義
一般目標：学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。
到達目標：
1)学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
2)学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

(2)教育課程の編成の方法
一般目標：教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
到達目標：
1)教育課程編成の基本原理を理解している。
2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。

(3)カリキュラム・マネジメント
一般目標：教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。
到達目標：
1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

評価方法

授業後に出す予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）、中間レポート（到達目標（１）を評価）、定期試験（到達目標（１）～（３）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、中間レポート20%、定期試験50%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①教員免許状の申請に必要な科目であることから、授業のレベルを落とすことができない。

世界史・日本史・地理の基本的な知識（アメリカ合衆国、イギリスの位置、ＧＨＱくらいは知っておくこと）がなければ、履修しても授業についてこれないので、注意すること。
②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育課程論を学ぶ意義
第2回	教育課程の意義
第3回	教育課程の基本原理
第4回	教育課程の変遷（１）―第三次改訂まで―
第5回	教科書検定制度と教科書使用義務
第6回	教科書裁判
第7回	教育課程の変遷（２）―第四・五次改訂―
第8回	教育課程の変遷（３）―第六・七次改訂―
第9回	教育課程の変遷（４）－「確かな学力」と社会に開かれた教育課程－
第10回	ゆとり教育批判（１）－ゆとり世代とはだれか―
第11回	ゆとり教育批判（２）―学力低下論争―
第12回	カリキュラム・マネジメント
第13回	カリキュラム評価
第14回	国際学力調査とカリキュラム
第15回	よりよい教育をめざした教育課程編成に向けて

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

黒川雅子、小野まどか、坂田仰『ＪＳＣＰ双書　ＮＯ．４　【新訂版】教育課程論』2020年、教育開発研究所 978-4-86560-524-2

参考書

文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』2017年。
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』2018年。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。
②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）
③中間レポートの作成にあたっては、PCが必須となるため、使用できる環境を準備しておくこと。

教職論（77158）

後期

Introduction to　Teaching Profession

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

教員とは、いかに養成され、いかなる地位や役割を期待されてきたのかに関して、戦前・戦後の教育制度や国際比較を通して、基本的な論理や事項について学ぶ。このことを通して、教員という進路選択をした際に、学び続ける教員となる必要性があることを自覚する。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
(1)教職の意義
一般目標：我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。
到達目標：
1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

(2)教員の役割
一般目標：教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。
到達目標：
1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。
2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

(3)教員の職務内容
一般目標：教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上·身分上の義務を理解する。

到達目標：
1)幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。
2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
3)教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

(4)チーム学校運営への対応
一般目標：学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。
到達目標：
1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

評価方法

授業後に出す予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（４）を評価）、中間テスト（到達目標（２）、（３）を評価）、最終レポート（到達目標（１）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、中間テスト20%、最終レポート50%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①教員免許状の申請に必要な科目であることから、授業のレベルを落とすことができない。
分からないことがある場合は、授業中、もしくは授業前後に必ず質問に来ること（分からないことを放置しない）。

②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教職論を学ぶ意義
第2回	教職の意義
第3回	学校と教員の歴史
第4回	戦前の教員養成制度
第5回	戦後の教員養成制度
第6回	戦前の教員身分
第7回	戦後の教員身分
第8回	教員の位置づけ-教師聖職論、教師労働者論、教師専門職論－
第9回	校務分掌組織
第10回	教員の服務義務
第11回	教員の政治的行為の制限
第12回	チーム学校（１）―中教審答申を読む―
第13回	チーム学校（２）―教員になった時のことを考える―
第14回	進路としての教職
第15回	「よい先生」とは何か？

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

指定しない。

参考書

①羽田積男・関川悦雄編『Next教科書シリーズ　現代教職論』2016年、弘文堂　978-4335002205
②篠原清昭編『法学シリーズ職場最前線５　教育のための法学：子ども・親の権利を守る教育法』2013年、ミネルヴァ書房　978-4623067480

＊他にも多数参考文献があるため、適宜、授業中に紹介する。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。
②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。

（宿題はすべて出して当然だけれども。）

③最終レポートの執筆にあたっては、PCが必須となるため、使用できる環境を準備しておくこと。

教育学原論（77201）

前期

Principles of Pedagogy

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

本授業では、実際の学校現場でも直面するであろう「教えるとは何か？」という問いについて、学校教育の歴史的展開と、様々な思想家の思想から学ぶ。その際、教職に就こうとする者にとって、何を、どう教えるのかだけではなく、児童生徒に何を身につけさせるのかを考えるための場ともする。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

(1)教育の基本的概念
一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
到達目標：
1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。
2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

(2)教育に関する歴史
一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
到達目標：
1)家族と社会による教育の歴史を理解している。
2)近代教育制度の成立と展開を理解している。
3)現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

(3)教育に関する思想
一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。
到達目標：
1）家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。
2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
3)代表的な教育家の思想を理解している。

評価方法

授業後に出す予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）と、中間試験（到達目標（１）～（３）を評価）、最終レポート（到達目標（１）～（３）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、中間試験35%、最終レポート35%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①教員免許状の申請に必要な科目であることから、授業のレベルを落とすことができない。
世界史・日本史・地理の基本的な知識（アメリカ合衆国、イギリスの位置、ＧＨＱくらいは知っておくこと）がなければ、履修しても授業につ

いてこれないので、注意すること。
②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育学を学ぶ意義
第2回	子どもの誕生と近代家族
第3回	近代学校と義務教育の成立
第4回	17世紀の教育と教授学の成立（１）―コメニウスの思想に着目して―
第5回	17世紀の教育と教授学の成立（２）―コメニウスの世界図絵を考察する―
第6回	発達に沿った教育という思想―18・19世紀の教育思想―
第7回	20世紀の教育と新教育運動
第8回	明治・大正期の教育
第9回	戦時下の学校と教育
第10回	戦後教育改革
第11回	高度経済成長期の教育
第12回	第三の教育改革
第13回	遺伝と環境（１）－データを用いて－
第14回	遺伝と環境（２）―早期教育論を考える―
第15回	ジョン・デューイの思想から考えるアクティブラーニングの意義

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

宇内一文編『教職のための学校と教育の思想と歴史』2018年、三恵社 978-4864877466

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。

②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）

美術科教育法Ⅲ（77202）

前期

Method of Teaching Fine Art Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

中学校の美術科授業構築について、できるだけ実践的なアプローチで考察する。自己表現の時間という前提のもとで、クラスに応じて臨機応変に教材を研究し授業を展開してゆくための基本的な理念を、あくまで各々の実作品制作経験に基づいて構築を試みる。

到達目標

（１）美術科の目標及び内容

一般目標：学習指導要領に示された美術科の目標や内容を理解する。

到達目標：

１）学習指導要領における美術科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）美術科の学習評価の考え方を理解している。

４）美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる

（２）美術科の指導方法と授業設計

一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標：

１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）美術科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

５）美術科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

受講態度等（２０％；到達目標1・2）、課題提出（８０％；到達目標2）の割合で評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

用具の準備等は逐次学内の掲示板にて告知する。連絡の無い場合は、スケッチブックあるいはクロッキー帳、筆記用具等を各自持参のこと。

授業計画

1週目：ガイダンス

2週目：美術教育と中高学校教育の実際I（学習指導要領）

3週目：美術教育と中高学校教育の実際II（中学校美術教科書）

4週目：美術教育の意義について

5週目：教材研究および模擬授業I（グループワークによる指導案作成と当番学生による模擬授業の実施）

6週目：教材研究および模擬授業III（Ｉを受けて改善を試みた指導案に基づく模擬授業の実施）

7週目：教材研究および模擬授業Ⅳ（同じ指導案の見直し、改善を試みながらまわり順で受講者全員が模擬授業を行う）

8週目：教材研究および模擬授業Ⅴ（全員が行ったのち、グループ同士で教材を交換して同じように授業構築を試みる）

9週目：教材研究および模擬授業Ⅵ（特に導入部の10分を繰り返し行いながら授業計画全体を構想する）

10週目：教材研究および模擬授業Ⅶ（プレゼン資料等は講義開始までに準備し、始業と同時に模擬授業を開始する）

11週目：教材研究および模擬授業Ⅷ（各自が２つの教材について、2回づつほど授業を行うことを目標とする）

12週目：教材研究および模擬授業Ⅸ

13週目：指導案の作成について
14週目：総括
15週目：レポート提出

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
模擬授業用の資料作成、リハーサル等、本番同様の準備・復習をすること。

教科書

適宜指示する。

参考書

学習指導要領

備考

教育学原論（77203）

前期

Principles of Pedagogy

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	高木加奈絵

授業の概要

本授業では、実際の学校現場でも直面するであろう「教えるとは何か？」という問いについて、学校教育の歴史的展開と、様々な思想家の思想から学ぶ。その際、教職に就こうとする者にとって、何を、どう教えるのかだけではなく、児童生徒に何を身につけさせるのかを考えるための場ともする。

【フィードバック】授業後に出された宿題に対して、フィードバックを行う。
【アクティブラーニング】グループワーク（知識構成型ジグソー法）、事前学習型授業、反転授業を行う。
【ＩＣＴを活用した 双方向型授業】
・google formsを用いて、簡単なテストやアンケートを行う。また、google classroomを用いて添削指導を行う。
・グループLINEを用いて、質問の受け答えや討論を行う。

到達目標

(1)教育の基本的概念
一般目標：教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。
到達目標：
1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。
2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

(2)教育に関する歴史
一般目標：教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。
到達目標：
1)家族と社会による教育の歴史を理解している。
2)近代教育制度の成立と展開を理解している。
3)現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。

(3)教育に関する思想
一般目標：教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。
到達目標：
1）家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。
2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
3)代表的な教育家の思想を理解している。

評価方法

授業後に出す予習復習を兼ねた宿題（到達目標（１）～（３）を評価）と、中間試験（到達目標（１）～（３）を評価）、最終レポート（到達目標（１）～（３）を評価）により、総合的に評価する。
評価は、宿題30%、中間試験35%、最終レポート35%の重みで判定する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

①教員免許状の申請に必要な科目であることから、授業のレベルを落とすことができない。
世界史・日本史・地理の基本的な知識（アメリカ合衆国、イギリスの位置、ＧＨＱくらいは知っておくこと）がなければ、履修しても授業につ

いてこれないので、注意すること。
②アクティブラーニングを行う授業では、予習が必須となる。予習をしてこないものは授業を受けさせない場合があるので、注意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	教育学を学ぶ意義
第2回	子どもの誕生と近代家族
第3回	近代学校と義務教育の成立
第4回	17世紀の教育と教授学の成立（１）―コメニウスの思想に着目して―
第5回	17世紀の教育と教授学の成立（２）―コメニウスの世界図絵を考察する―
第6回	発達に沿った教育という思想―18・19世紀の教育思想―
第7回	20世紀の教育と新教育運動
第8回	明治・大正期の教育
第9回	戦時下の学校と教育
第10回	戦後教育改革
第11回	高度経済成長期の教育
第12回	第三の教育改革
第13回	遺伝と環境（１）－データを用いて－
第14回	遺伝と環境（２）―早期教育論を考える―
第15回	ジョン・デューイの思想から考えるアクティブラーニングの意義

授業外学習

学習時間の目安：
各回の授業計画で提示してある予習・復習で、各回4時間。

予習：教科書の該当ページに目を通して、概説を理解する。
　さらに、Google ClassroomにＵＰした予習用の動画を閲覧する。
復習：授業後に出す宿題を解く。

教科書

宇内一文編『教職のための学校と教育の思想と歴史』2018年、三恵社 978-4864877466

参考書

授業中に適宜提示する。

備考

①アクティブラーニング型の授業があるため、配慮願いの出ている学生に対しては、他の学生と異なった方法で取り組み、評価を行うといった配慮を行う場合がある。

②宿題の提出が11回に満たないものは単位を与えない。
（宿題はすべて出して当然だけれども。）

教育の方法と技術（77251）

前期

Educational Technology

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司

授業の概要

本科目は、教育工学の観点から、教育（視聴覚）メディアの意義と学習支援の方法についての理解を深めるとともに、各種の情報機器や視聴覚教材を活用する能力や、メディア･リテラシーの育成をめざす。また、教育方法学的な観点から、何のために、何を、どのようにして教えるかという学習指導の基礎理論を踏まえて、効果的な指導技術について実践的に修得することをねらいとしている。
本科目は、教育職員免許状の取得に必修とされる「教職に関する科目」である。

【アクティブ･ラーニング】プレゼンテーションとグループ・ワークを取り入れている。

【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、クリッカーを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る試みを実践する。クリッカーとは応答用リモコンのことで、ボタンを押すことにより簡単なテストやアンケートをリアルタイムで集計できることが特長とされている。

到達目標

1.教育の方法論
1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
2）これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
3）学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。
4）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

２．教育の技術
1）話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
2）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容､教材・教具､授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

３．情報機器及び教材の活用
1）生徒の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
2）生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1・2・3を評価）、課題レポートⅠ10%（到達目標1を評価）、課題レポートⅡ10%（到達目標2を評価）、課題レポートⅢ10%（到達目標3を評価）、プレゼンテーション10%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教育職員免許状を取得するための必修科目である。免許科目として、授業の水準を維持する必要があるので、教員を目指そうとする目的意識を持って履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育方法の基礎的理論：教育工学の定義と領域

回数	内容
第3回	教育効果の高い指導法とは：主体的・対話的で深い学びに関するワーク（グループワークの実施）
第4回	行動科学を適用したこれからの教育方法：学級・生徒・教員・教室・教材などのシステム化
第5回	行動科学を適用したこれからの学校建築
第6回	教育(視聴覚）メディアの種類と特徴
第7回	教育(視聴覚）メディアの活用による学習支援の方法（クリッカーの使用）
第8回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：インストラクショナル・デザインに基づく活用
第9回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：カリキュラム構成理論に基づく活用
第10回	効果的な学習指導のポイント（1）：基礎的な学習指導理論
第11回	効果的な学習指導のポイント（2）：話法・板書などの基礎的技能
第12回	効果的な学習指導のポイント（3）：学習評価の視点を含めた学習指導案の作成
第13回	教育(視聴覚）メディアおよび教材を効果的に活用した学習指導のあり方（プレゼンテーションの実施）
第14回	教育の方法と技術のまとめ（1）： メディア・リテラシー（情報モラルを含む）の育成に向けて
第15回	教育の方法と技術のまとめ（2）：総括

授業外学習

授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。また、プレゼンテーションも実施するので、事前準備が必要となる。
なお、課題レポート１・Ⅱ・Ⅲに関する具体的なテーマや作成のポイントについては、授業中に詳しく説明する。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領解説（総則編）」に関する資料などを適宜紹介する。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

Google Classroomを基本ツールとして活用する。

生涯学習概論（77252）

後期

Introduction to Life-long Learning

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	赤木恒雄

授業の概要

1965年に生涯教育論が提唱されて以来、我が国をはじめ諸外国も教育が生涯学習の観点から再編されてきた。我が国では、臨時教育審議会答申以降、生涯学習体制の整備が急速に進んでいる。その中で、社会教育は生涯学習政策の中心的役割を果たしてきたが、同時に大きな問題を抱えている。
講義では、生涯学習の考え方を明確におさえながら、生涯学習と社会教育および学校教育との関係、生涯学習に向けての歴史的動向、生涯学習施設、成人の学習方法、学習情報提供および学習相談等について論ずる。そしてそれらを踏まえて、学習機会の保障のあり方について、理論的側面と実際的側面を織り交ぜて論述する。

【フィードバック】課題（確認テスト、レポート等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方型授業】
本授業では、Google Classroom を活用した双方向型授業を展開します。
・授業終了後に授業内容、配付資料、確認テスト等を提示します。（復習に活用して下さい）
・課題（レポートⅠ・Ⅱ）はGoogle Classroom を通じて提示し、提出していただきます。
・授業終了後に、当日配布した資料等を提示します。

到達目標

１．生涯学習の考えを理解し、社会教育・学校教育・家庭教育の関係について説明できるようになる。
２．生涯学習の歴史及び政策、それに伴う問題点について理解・説明できるようになる。
３．成人の発達特性、成人の学習原理、成人の学習を理解・説明できるようになる。
４．生涯学習支援体制（制度、施設、指導者、学習情報提供など）について理解・説明できるようになる。

評価方法

評価方法
授業最後に実施する確認テスト15%（到達目標1，2，3，4を評価）、レポート20%（到達目標1，2を評価）、施設訪問レポート20%（到達目標を4評価）、定期試験45%（到達目標１，３，４を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

・本科目は博物館学芸員課程の必修科目であり、教職課程の選択科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
・出席は授業開始時に配布する出席用紙により、厳しくチェックする。遅刻は3回で１欠席とする。
・講義終了前に講義内容に関する確認テスト（出席用紙）を行い、解答した出席用紙を提出してもらう。次回の講義開始時に確認テストについてコメントする。
・机上には飲食物を置かないこと（脱水症状防止のために、飲むことは禁止しない）。
・レポートの提出期限を守ること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生涯教育の概念
第3回	社会教育・学校教育・家庭教育の関係、生涯学習とリカレント教育との関係
第4回	生涯学習施設の概念　（レポートI の課題の提示）

回数	内容
第5回	社会教育施設（公民館・図書館・博物館）とその課題
第6回	生涯学習施設（教育委員会以外の行政機関・民間教育機関）とその課題
第7回	社会教育の歴史　　（施設訪問レポートの課題の提示）
第8回	1970年以降の生涯学習政策の動向
第9回	生涯学習政策における課題
第10回	成人学習者の特徴(成人の発達特性）
第11回	生涯学習の方法･形態及び成人の学習について
第12回	生涯学習指導者及び指導者に求められる能力について　（レポートII の課題の提示）
第13回	学習情報提供とその課題について
第14回	学習相談のあり方について
第15回	学習機会の保障に向けて －まとめ－

授業外学習

学習時間の目安は合計60時間である。
・必ず授業で学ぶ内容について、テキストの該当ページを読み、予習・復習をすること。
・講義内容を理解・整理してもらうために、２つのレポートを課す。
・講義だけでは理解しにくいので、上記のレポート以外に生涯学習施設の訪問インタビューに基づく施設訪問のレポートを課す。
・現在教育を含む社会が大きく変化しつつあるので、絶えず新聞等の様々なメディアを通して、現代社会の動向を把握しておくこと。

教科書

『生涯学習社会の構築』|佐々木正治編|福村出版|978-4-571-10138-0

参考書

佐々木正治編『21世紀の生涯学習』福村出版、2000.
渡邊洋子著『生涯学習時代の成人教育学　学習者支援へのアドヴォカシー』明石書店,2002.
鈴木真理他編『社会教育の施設論』学文社,2015.
他の参考書等については講義中に適宜提示する。

備考

理科教育法Ⅲ（77301）

前期

Method of Teaching Science Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	中山広文

授業の概要

中・高校生は心身ともに発達が著しく，知的探究心の高まりとともに，物事をある程度，抽象的に考えたり，論理的・合理的に判断したりしようとする傾向が強くなる時期でもある。また，2016年(小・中学校)，2017年(高等学校)には，次期学習指導要領の改訂告示が行われ，2018年(小・中学校)，2019年(高等学校)の移行期間を経て，2020年(小学校)，2021年(中学校)には全面実施，2022年(高等学校)年次進行で実施の予定である。その主なねらいは，現行の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で，知識の理解の質を高め，確かな学力を育成しようとするものである。とくに理科教育においては，見通しを持った観察・実験の充実，データ等の収集・分析力，課題解決のための方策の構築など，さらなる理科教育の充実が求められるようになった。このような状況を踏まえ，本授業では，理科教育法I・IIを基礎に，理科教育の見識を深めたい人や中学校，高等学校理科教員を志す学生を対象とし，より実践的な指導力の育成をめざす。具体的には，次年度に控えた教育実習や採用試験を意識した理科教育の意義，教科内容の理解，理科学習指導案の具体的な書き方，また模擬授業等により実践的な授業展開のあり方を体得することを目的とする。

到達目標

（１）学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）基礎的な学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考，学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・講義への取り組み姿勢　　１０％（到達目標（１）（２）を評価）
・課題（学習指導案など）提出とその内容　５０％（到達目標（１）を評価）
・試験（模擬授業を含む）　　４０％（到達目標（２）を評価）
総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

本授業は，真に理科教師を志す学生のための講座である。自らが教師になったつもりで講義に参加すること。
したがって，授業を受けるマナーや態度等については十分な自覚をもつこと。
授業計画は，学生の教科レベルや授業の進捗状況によりその内容や予定を変更することもある。
この授業を通して，教える喜びやわかる楽しさをより多く経験してもらいたい。
様々なグループワーク（協同学習）を行うので，欠席しないこと。

授業計画

回数	内容

回数	内容
第1回	中学校・高等学校の理科教育の現状
第2回	中学校・高等学校の理科教育課程
第3回	理科教育の目的と目標
第4回	学習指導案の書き方Ⅰ（理論）
第5回	学習指導案の書き方Ⅱ（実践）
第6回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅰ（物理分野）
第7回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅱ（化学分野）
第8回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅲ（生物分野）
第9回	中学校理科の内容とその扱い方Ⅳ（地学分野）
第10回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅰ（科学と人間生活）
第11回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅱ（化学基礎・化学）
第12回	高等学校理科の内容とその扱い方Ⅲ（生物基礎・生物）
第13回	理科における実験・観察（安全管理）
第14回	理科におけるICT教育
第15回	理科における協同学習

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・新聞やインターネット等で理科教育に関連する項目には，アンテナを常に高くしておくこと。
・授業後見直しを行い，より学習を確かなものにしておくこと。
・学習指導案等の作成，提出は期限を厳守すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

中学校理科教科書　東京書籍　「新しい科学１～３年」等
高等学校科学と人間生活教科書　数研出版　「新　科学と人間生活」等
高等学校化学教科書　数研出版　「化学基礎」・「化学」等
高等学校生物教科書　数研出版　「生物基礎」・「生物」等
文科省「高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）理科編・理数編」「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編」
授業に活かす理科教育法　佐巻健男編著　東京書籍

備考

美術科教育法Ⅰ（77302）

前期

Method of Teaching Fine Art Ⅰ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

中学校、高等学校における現状の課題を理解し、学校現場で美術教育を実践できる力を養う。
そのために必要な美術科に関する知識、教育技術などを実践的に学ぶ。
教育基本法や学習指導要領など美術科教育に必要な事柄を学ぶ。
美術科教員に必要な教育的視点について体験をとおして客観的に把握する。

到達目標

（１）美術科の目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された美術科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における美術科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）美術科の学習評価の考え方を理解している。
４）美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる
（２）美術科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）美術科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）美術科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

レポート１：美術科教育の歴史、美術科の教育の単元他25%　到達目標（１）の評価
レポート２美術科模擬授業各回の小レポート25%　到達目標（１）及び（２）の評価
美術科学習指導案作成提出　30%到達目標（２）の評価
模擬授業20%到達目標（２）の評価
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

各回の授業終了後 レポート提出。

授業計画

第１回：美術科教育法を学ぶ意味について。学校現場の現状を捉えて。
第２回：中学校及び高等学校におけるカリキュラムについて。教育基本法、学習指導要領等の内容。
第３回：教材研究の重要性について 。
第４回：教材研究Ⅰ　Ⅰ表現について　絵、彫刻。
第５回：教材研究Ⅱ　表現について　デザイン、工芸。
第６回：教材研究Ⅲ　表現について　技能に関すること。
第７回：教材研究Ⅳ　鑑賞について　作者の意図や創造的な表現。

第８回：教材研究Ⅳ　鑑賞について　生活を豊かにする美術。
第９回：教材研究Ⅴ　鑑賞について　日本の美術、世界の美術。
第１０回：授業実践体験Ⅰ　学習指導案作成　指導計画と授業。
第１１回：授業実践体験Ⅱ　学習指導案作成　単元について。
第１２回：授業実践体験Ⅲ　学習指導案作成　評価について。
第１３回：授業実践体験Ⅳ　教材と教具について。
第１４回：授業実践体験Ⅴ　描画の発達　描画の発達段階　学齢における表現の特性について。
第１５回：これからの美術教育についてのディスカッション。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
模擬授業の指導案を作成する。 模擬授業資料を収集する。
模擬授業におけるICT機器の使用について、実際に扱い確認を行う。

教科書

中学校学習指導要領解説

参考書

中学校高等学校の単元集、中学生の参考作品資料、学習指導案の書き方とその例

備考

教育心理学（77304）

前期

Educational Psychology

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋

授業の概要

学校現場での児童・生徒理解にとって必要と思われる基本的な理論・事項について学ぶ。また、教職に就こうと志す者にとっての自己洞察の場ともする。
・生徒を正確に理解するための技法・知識を身につける。
・適切な学級経営を行うための技法・知識を身につける。
・教育評価に関する技法・知識を身につける。

【フィードバック】単元ごとの小テスト返却時に解説・補足説明を行う。

【ＩＣＴを活用した双方向型授業】
本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開します。
・授業内容を予め提示します。予習復習に活用してください。
・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出していただきます。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能やチャットを活用し、質問できるようにします。

到達目標

（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程
一般目標：幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。
到達目標
1）幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。
2）乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。

（2）生徒の学習の過程
一般目標：生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。
到達目標
1）様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。
2）主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。
3）生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。

評価方法

小テストと定期試験により総合的に評価する。評価は、単元ごとの小テスト（40%）（到達目標1・2）、定期試験（60%）（到達目標1・2）の重みで判定する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	教育心理学の意義、教育心理学の歴史的展開 予習：10－18ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：教育心理学の歴史的展開について研究者名とともに覚える。章末の演習問題（19-20ページ）を解く。

回数	内容
第2回	発達（1）発達を規定する要因、発達段階と発達課題、運動の発達 予習：22-30ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：遺伝説、環境説から相互作用説への発達観の変遷を理解する。刷り込み、マターナル・ディプリベーションなど、発達初期の重要性について理解する。次回の小テストの準備。
第3回	発達（2）言語能力の発達、知的能力の発達 予習：122-130ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：Piagetの発達段階について理解する。向社会的行動、道徳性の発達について理解する。章末の演習問題（138ページ）を解く。
第4回	発達（3）社会性の発達 予習：31-36、150-152、165-171ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：Eriksonの発達段階について理解する。青年期の心身発達の特徴を理解する。章末の演習問題（37-38、174-175ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第5回	パーソナリティと適応 予習：140-144、149-150ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：パーソナリティの定義および理論（類型論、特性論、構造論）、自我防衛機制について理解する。次回の小テストの準備。
第6回	パーソナリティの測定 予習：144-148、130-137ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：さまざまなパーソナリティ検査法について理解する。知能の構造、知能検査、知能偏差値等について理解する。章末の演習（153ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第7回	学級集団の理解と指導 予習：172-174、178-188ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：：集団の特性について理解するとともに、リーダーシップ論、教室で教師に求められる役割について理解する。ソシオメトリック・テストをはじめとした学級構造を理解する方法について理解する。児童生徒の発達にともなう構造変化を理解する。章末の演習（174-175、188-189ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第8回	学習（1）条件づけ、観察学習 予習：60-66ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習理論について理解する。学習理論の教育場面への応用について理解する。次回の小テストの準備。
第9回	学習（2）記憶の仕組みと記憶方略、問題解決 予習：66-73ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：記憶の分類と構造、問題解決について理解する。メタ記憶、メタ認知を教育場面と関連づけて理解する。章末の演習（74ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第10回	動機づけ、学習意欲 予習：40-57ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：動機づけの種類、自律的な学習の特徴・メカニズムについて理解する。章末の演習（58ページ）を解く。
第11回	学習指導（1）学習指導の理論 予習：76-83ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：プログラム学習、発見学習、有意味受容学習について理解する。
第12回	学習指導（2）協働的な学び・主体的な学び 予習：83-92ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：協同学習の意義と方法を理解する。主体的な学びを支援する方法について理解する。章末の演習問題（94-95ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第13回	教育評価 予習：98-119ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：教育評価の方法と長所・短所について理解する。研究法について理解する。教育場面で使われるさまざまな統計の式と意味を理解し、計算できるようにする。章末の演習問題（120ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第14回	子どもの不適応とストレス 予習：192-213ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：カウンセリング・マインドについて理解する。不適応と障害について理解する。いじめについて理解する。章末の演習問題（214ページ）を解く。次回の小テストの準備。
第15回	障害児の心理 予習：216-231ページ、Classroomに呈示する配布資料を読む。 復習：ADHD、LD、広汎性発達障害の特徴と、支援のあり方について理解する。章末の演習問題（231-232ページ）を解く。

授業外学習

学習時間の目安：各回の授業計画に指示してある予習・復習・小テストへの準備で、各回4時間

予習：教科書の該当ページに目を通して概略を理解する。
復習：各単元の終了時点で小テストを行うので、用語、人名を正確に理解するとともに、概念間の関連性を明確に理解する。
　　教職課程資料室に設置してある教員採用試験の過去問題を解く。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学|桜井茂男|図書文化|978-4-8100-7690-5

参考書

適宜紹介する。

備考

保健体育科教育法Ⅲ（77305）

前期

Teaching Methods of Health and Physical Education, Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	大家一

授業の概要

保健体育科教育法IIIでは、保健体育科教育法I・IIで学んだ知識と授業技術について、実践的な場で活用することができることを目指します。具体的な内容としては、与えられた単元について数名のグループで指導計画(単元計画と単元時間計画)を作成し、体育の模擬授業を実施することを中心に行います。

到達目標

（１）学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢（３０％；到達目標1・2）、指導案の内容（３０％；到達目標2）、模擬授業の内容（４０％；到達目標2）により総合的に評価します。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、模擬授業の班編成
第2回	指導計画作成方法の確認と実施（単元計画）
第3回	指導計画作成方法の確認と実施（単位時間計画）
第4回	模擬授業（１）ソフトボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第5回	模擬授業（２）サッカー　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第6回	模擬授業（３）ハンドボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第7回	模擬授業（４）陸上競技　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第8回	模擬授業（５）バレーボール　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第9回	模擬授業（６）バスケットボール 実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価

回数	内容
第10回	模擬授業（７）体つくり運動、器械運動 実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第11回	模擬授業（８）ダンス　　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第12回	模擬授業（９）卓球　　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第13回	模擬授業（１０）バドミントン　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第14回	模擬授業（１１）バドミントン　実施後、教師役の自己評価、生徒役の評価
第15回	総合まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

指導計画を立てる際に必要な情報をえるため、学内外の図書館などを利用し、資料の収集を積極的に行うこと。
模擬授業後、反省を生かした指導計画案を作成し提出する。
総合計60点以上を合格とする

教科書

文部科学省 中学校学習指導要領解説－保健体育編－（東山書房）978-4827815764
文部科学省 高等学校学習指導要領解説－保健体育編－（東山書房）978-4827815689
アクティブスポーツ（総合版）2020（大修館書店）978-4469365658

参考書

授業中に随時紹介します。

備考

介護等体験の基礎（77306）

前期

Study of Nursing The Handicapped

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	池田綱政 三宅飛翔

授業の概要

◆介護（福祉）に関する視点と動向を歴史的変遷から理解し学びを深める。
◆介護保険で運営されている各施設の特徴及び基本理念と介護実践内容の概要を学ぶ。
◆動画などの資料やディスカッションで、要介護者等の心身の状態やコミュニケーション方法を学ぶ。
◆介護に必要な対象の理解と基本的な介護知識、基本的な援助技術を学ぶ。
◆実際に介護技術などの体験を通して介護者、利用者への相互理解を深める。
◆介護体験に臨む心構えや留意点を把握する。
◆介護の安全確保とリスクマネジメントを学ぶ。

到達目標

１．教職を目指す学生が介護等体験において有益な体験ができるようになる。
２．福祉・介護における法律や高齢者及び障がい者の基礎的な知識について理解し説明できる。
３．簡単な介護技術やコミュニケーションスキルを習得し実践できる。

評価方法

授業中に実施するグループワークや発表内容４０％（到達目標１、３を評価）、授業毎のレポート提出３０％（到達目標２を評価）、期末レポート提出３０％（到達目標１、２、３を評価）で評価する。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

評価には期末レポート、授業毎のレポート提出が必要となります。
授業計画の内容は進捗状況により前後することがあります。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（池田）
第2回	高齢者福祉について（池田）
第3回	高齢者体験（三宅）
第4回	一般教養・マナー（性格判断・コミュニケーションなど）（三宅）
第5回	介護保険の現状（介護保険に関する理解）（池田）
第6回	援助の概論（要介護者に対する援助について）（三宅）
第7回	医学の予備知識（高齢者がもつ一般的な病理説明）（池田）
第8回	精神保健（高齢者の心理）（三宅）
第9回	介護技術１（介護の実例・・・移動、移乗、入浴等）（三宅）
第10回	介護技術２（介護の実例・・・食事、排泄等）（三宅）
第11回	リハビリ・健康管理（介護予防コーディネーション・リハビリについて）（池田）

回数	内容
第12回	レクリエーション（日常におけるリハビリテーションの役割など）（三宅）
第13回	介護施設の現状（一般的な視点から見た介護施設）・施設説明（池田）
第14回	個人情報について（三宅）
第15回	施設等体験に関する留意点・総まとめ（池田）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

宿題や予習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

資料を適宜配布

参考書

チャレンジ介護等体験ーー共生時代における障害理解のエッセンス（ナカニシ出版）

備考

教職実践演習（77351）

後期

Practical Seminar for the Teaching

教職科目

年次	４年
対象	24 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	唐川千秋 高木加奈絵

授業の概要

必要に応じて小グループで活動する演習形式の授業である。履修カルテを有効に活用し、模擬授業・ロールプレーイング・事例研究等を通して、不足している知識や技能等を補うことにより、教員に求められる資質能力をより一層向上させる。なお、履修カルテは、「教職科目の履修状況」「履修者の傾向・特徴」「総合的な評価」を担当教員が、「自己評価シート」「ルーブリック」を学生がそれぞれ記入し、教職課程運営委員会の議を経てカルテの運用と管理を行う。倉敷市立連島中学校・連島南中学校において実施する学校現場の見学・調査（3回分）で公立中学校の見学・調査を行うことで、私立高等学校を中心に実施される教育実習を補完することが可能となる。

【アクティブラーニング】ロールプレー、グループ・ディスカッション、模擬授業に重点を置いた構成としている。
【フィードバック】グループ討論の発表、ロールプレー、模擬授業、課題レポート等に対する講評を行う。

到達目標

（1）これまでの教職課程の履修履歴を踏まえて、学修成果が十分に身についている領域、不十分な領域を明確にして今後の自己研鑽計画を立て、教員として必要な知識技能を修得する。
（2）教員としての使命感や責任感、教育的愛情等をもって、学級や教科を担当しつつ、学習指導、生徒指導等の職務を実践できるようになる。

評価方法

毎時間の活動状況と履修カルテに基づいて、教員に求められる資質能力の向上を総合的に判断して評価する。
定期試験は実施せず、総合レポートの提出を求める。
評価の比率は、毎時間の討論・ロールプレーイングなどの活動状況（40%）（到達目標1・2）、履修カルテ（40%）（到達目標1）、総合レポート（20%）（到達目標2）を基準とする。
合計得点60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
小グループで活動する演習形式の授業であるため、討論、ロールプレー等の活動に積極的に、真摯な姿勢で臨むこと。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業の概要説明、学修の振り返り、履修カルテ作成、小グループ決定）（唐川・高木）
第2回	教職の意義と教員の役割について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（唐川・高木）
第3回	教職の意義と教員の役割について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（唐川・高木） 【課題】教職の意義と教員の役割について、グループ単位でまとめる。
第4回	子どもに対する責任等について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（唐川・高木）
第5回	子どもに対する責任等について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（唐川・高木） 【課題】子どもに対する責任等について、グループ単位でまとめる。
第6回	社会性や対人関係能力について（1）講話・グループ討論・ロールプレーイング（唐川・高木）
第7回	社会性や対人関係能力について（2）グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（唐川・高木） 【課題】社会性や対人関係能力について、グループ単位でまとめる。

回数	内容
第8回	生徒理解と学級経営について（1） 講話・グループ討論・ロールプレーイング（唐川・高木）
第9回	生徒理解と学級経営について（2） グループ討論・ロールプレーイングの続きとまとめ（唐川・高木） 【課題】生徒理解と学級経営について、グループ単位でまとめる。
第10回	学級経営（ホームルーム）に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（唐川・高木）
第11回	特別活動（部活動）に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（唐川・高木）
第12回	補充授業等に関する学校現場（倉敷市立連島中学校・連島南中学校）の見学・調査（唐川・高木） 【課題】学校現場の見学・調査の成果をレポートにまとめる。
第13回	授業演習（1）模擬授業の実施による教科指導力の確認（唐川・高木） 予習：指導案作成
第14回	授業演習（2）モデル授業の実施とグループ討議・講評による教科指導力の確認とまとめ（唐川・高木） 予習：指導案作成
第15回	授業の成果と今後の課題に関する総括と履修カルテの完成（唐川・高木） 【課題】課題レポートの作成

授業外学習

学習時間の目安：授業準備と復習を合わせて各回４時間

授業準備：教育実習録、振り返りシート、履修カルテ、教職科目や教科科目で課された課題レポート、作品などのポートフォリオ分析を詳細に行うことを通して、グループ討論・ロールプレーで省察すべき具体的な観点を見つけておく。
復習：各内容に関するグループ討論の内容を整理してレポートを作成する。
　上記した省察の観点について、何をどのように改善することで資質の向上につながるのか、実行可能な具体策をレポート化する。

教科書

使用しない。適宜資料を配布する。

参考書

適宜案内する。

備考

美術科教育法Ⅳ（77352）

後期

Method of Teaching Fine Art Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	重藤和彦

授業の概要

美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
最終的には、美術科教育の今日的な課題を把握したうえで、中学校を想定した年間指導計画を各自完成させる。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッション／グループ・ワーク／プレゼンテーション（模擬授業・発表を含む）を取り入れている

【フィードバック】課題（プレゼンテーション、レポート等）に対する講評等フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

（１）美術科の目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された美術科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における美術科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）美術科の学習評価の考え方を理解している。
４）美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）美術科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）美術科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）美術科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

学習指導案・年間指導計画作成提出60%（到達目標２を評価）、グループ・ディスカッションおよびプレゼンテーション20%（到達目標１・２を評価）、レポート提出20%（到達目標１を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション／美術科教育の今日的課題
第2回	年間指導計画作成のために
第3回	演習Ⅰ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)ア 描く活動 教材研究
第4回	演習Ⅱ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)ア 描く活動 学習指導案作成

回数	内容
第5回	演習Ⅲ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)ア つくる活動 教材研究
第6回	演習Ⅳ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)ア つくる活動 学習指導案作成
第7回	演習Ⅴ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)アに関するプレゼンテーション
第8回	演習Ⅵ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)イ 描く活動 教材研究
第9回	演習Ⅶ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)イ 描く活動 学習指導案作成
第10回	演習Ⅷ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)イ つくる活動 教材研究
第11回	演習Ⅸ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)イ つくる活動 学習指導案作成
第12回	演習Ⅹ／中学校学習指導要領 美術 A表現(1)イに関するプレゼンテーション
第13回	演習Ⅺ／中学校学習指導要領 美術 B鑑賞 教材研究・学習指導案作成
第14回	演習Ⅻ／中学校学習指導要領 美術 B鑑賞に関するプレゼンテーション
第15回	年間指導計画と学習指導案完成／総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

模擬授業のための学習指導案を作成すること。
模擬授業のための教材教具や資料等を収集すること。
模擬授業で使用する機器の事前の確認を行うこと。

教科書

「美術１　美術との出会い」　日本文教出版社
「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　美術編」文部科学省

参考書

授業中に随時紹介する

備考

理科教育法Ⅳ（77353）

後期

Method of Teaching Science Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 B,Y,M
単位数	２．０単位
担当教員	中山広文

授業の概要

中・高校生は心身ともに発達が著しく，知的探究心の高まりとともに，物事をある程度，抽象的に考えたり，論理的・合理的に判断したりしようとする傾向が強くなる時期でもある。また，2016年(小・中学校)，2017年(高等学校)には，次期学習指導要領の改訂告示が行われ，2018年(小・中学校)，2019年(高等学校)の移行期間を経て，2020年(小学校)，2021年(中学校)には全面実施，2022年(高等学校)年次進行で実施の予定である。その主なねらいは，現行の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で，知識の理解の質を高め，確かな学力を育成しようとするものである。とくに理科教育においては，見通しを持った観察・実験の充実，データ等の収集・分析力，課題解決のための方策の構築など，さらなる理科教育の充実が求められるようになった。このような状況を踏まえ，本授業では，理科教育法I・II・IIIを基礎に，理科教育の見識を深めたい人や中学校，高等学校理科教員を志す学生を対象とし，次年度の教育実習の成功をめざして，より実践的な指導力を高めることを目的とする。

具体的には，理想的な授業展開のための教材研究，授業設計，学習指導案の作成，授業展開の技術などについて学生一人一人に実践してもらう。

そして，倉敷芸科大の学生として，教壇で素晴らしい個性的な授業展開ができることをめざす。

到達目標

（１）学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。

４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し，教材研究に活用することができる。

５）発展的な学習内容について探究し，学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）基礎的な学習指導理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

１）子供の認識・思考，学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。

３）学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

４）模擬授業の実施とその振り返りを通して，授業改善の視点を身に付けている。

５）当該教科における実践研究の動向を知り，授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

・講義への取り組み姿勢　　１０％（到達目標（１）（２）を評価）

・課題（学習指導案など）提出とその内容　５０％（到達目標（１）を評価）

・試験（模擬授業を含む）　　４０％（到達目標（２）を評価）

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

本授業は，真に理科教師を志す学生のための講座である。自らが教師になったつもりで講義に参加すること。

したがって，授業を受けるマナーや態度等については十分な自覚をもつこと。

授業計画は，学生の教科レベルや授業の進捗状況によりその内容や予定を変更することもある。

この授業を通して，教える喜びやわかる楽しさをより多く経験してもらいたい。

様々なグループワーク（協同学習）を行うので，欠席しないこと。

授業計画

回数	内容
第1回	中学校理科模擬授業Ⅰ（化学分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第2回	中学校理科模擬授業Ⅰ（化学分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第3回	中学校理科模擬授業Ⅱ（生物分野・準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察
第4回	中学校理科模擬授業Ⅱ（生物分野・実際）ー模擬授業の実施と評価
第5回	形成的評価と総括的評価ー評価問題等の作成
第6回	高等学校理科模擬授業Ⅰ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第7回	高等学校理科模擬授業Ⅰ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第8回	高等学校理科模擬授業Ⅱ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第9回	高等学校理科模擬授業Ⅱ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第10回	高等学校理科模擬授業Ⅲ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第11回	高等学校理科模擬授業Ⅲ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第12回	高等学校理科模擬授業Ⅳ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第13回	高等学校理科模擬授業Ⅳ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示
第14回	高等学校理科模擬授業Ⅴ（準備）ー教材研究、学習指導案の作成、授業展開の設計等について考察 ※学習項目については、別途指示
第15回	高等学校理科模擬授業Ⅴ（実際）ー模擬授業の実施と評価 ※学習項目については、別途指示

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

・新聞やインターネット等で理科教育に関連する項目には，アンテナを常に高くしておくこと。
・授業後見直しを行い，より学習を確かなものにしておくこと。
・学習指導案等の作成，提出は期限を厳守すること。

教科書

プリントを配布する。

参考書

「中学校理科教科書・東京書籍・新しい科学１・２・３年」
「高等学校教科書・ 数研出版・科学と人間生活」「高等学校教科書・数研出版・物理基礎・物理」「高等学校教科書・数研出版・化学基礎・化学」「高等学校教科書・数研出版・生物基礎・生物」「高等学校教科書・数研出版・地学基礎・地学」
「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）理科編・高等学校学習指導要領解説（平成30年告示） 理科編・理数編」（文科省ネットサイトからダウンロードも可能）
「授業に活かす理科教育法・佐巻健男編著・東京書籍」

備考

教育相談の理論と方法（77354）

後期

Study of Educational Counseling

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	鉄川大健

授業の概要

教育相談の基本は、『こころ』に寄り添い、話をじっくりと聴き、信頼関係を保つことが必要である。そのために、以下のような講義や演習を通して、教育相談の理論や方法について学習していく。

1. 教育相談の理論について究明する。
2. 人間関係構築の在り方とその方法について理解し、教育相談に活用する。
3. カウンセリング理論について理解を深める。
4. 児童生徒の多様性や問題を正確に把握し、児童生徒との関わり方について理解を深める。
5. 自己理解を深め、学校組織における自分の役割や自分で可能な支援を考える。

到達目標

１．教育相談の意義と理論
　１）学校における教育相談の意義と課題を理解している。
　２）教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。
２．教育相談の方法
　１）幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味並びに幼児、児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解している。
　２）学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性を理解している。
　３）受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。
３．教育相談の展開
　１）職種や校務分掌に応じて、幼児、児童及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。
　２）いじめ、不登校・不登園、虐待、非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解している。
　３）教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。
　４）地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。

評価方法

①講義内容の理解についての定期試験（60%）
②話の聴き方の演習（10%）
③毎回の講義後に提出する小レポート（30%）

到達目標１、２、３すべてに関して、①定期試験、③小レポートにより評価を行うが、到達目標２に関しては②演習による評価も含まれる。上記3つについて全てを満たした上で、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
１）学生および教員が不快な思いをせずに授業を過ごせる受講態度に心がけること。
２）授業への積極的な参加に心がけること。

授業計画

第１回：教育相談（教育相談の意義、教育相談のねらい、生徒指導と教育相談）
第２回：カウンセリング理論(1)：来談者中心的アプローチ（来談者中心療法、カウンセリングマインド、教育相談における基本的態度）
第３回：カウンセリング理論(2)：精神力動論的アプローチ（精神分析学、分析心理学、個人心理学、子どもの発達段階の理解を教育相談につなげる）
第４回：カウンセリング理論(3)：認知行動論的アプローチ（行動療法、論理療法、認知行動療法、学習理論に基づく教育相談）

第５回：カウンセリング理論(4)：システム論的アプローチ（学校カウンセリングと家族臨床、リフレーミング、子どもを取り巻く環境に着目した教育相談）
第６回：自己理解 & ストレスとリラクゼーション〔自己理解、交流分析、ストレス、リラクゼーション法（筋弛緩法、自律訓練法、マインドフルネス等）〕
第７回：人間関係の構築：基本的傾聴スキル & 他者尊重・他者理解（傾聴スキルの練習、マイクロ技法、体験学習）
第８回：子どもの発達を知る（愛着理論）
第９回：子どもの多様性：発達障害(1)〔①ASD（自閉症スペクトラム障害）②ADHD（注意欠如・多動症）〕
第１０回：子どもの多様性：発達障害(2) & その他〔③LD（学習障害）④知的能力障害 ⑤その他の精神症状 ⑥多文化共生 ⑦LGBTQ〕
第１１回：子どもに起こりうる問題：いじめ & 非行（いじめの現状、非行の現状、対応方法と教育相談）
第１２回：子どもに起こりうる問題：不登校（不登校の現状、対応方法と教育相談）
第１３回：子どもに起こりうる問題：虐待（虐待の現状、対応方法と教育相談）
第１４回：子どもの対応を考える①（アセスメントと支援、ケース検討、グループ討議）
第１５回：子どもの対応を考える② & 総まとめ
定期試験

授業外学習

１）授業をしっかりと理解したい学生は、指定した教科書を事前に読んでおくことが望まれる。
２）授業内で学んだカウンセリング技法を、友人や家族等との会話の中において実践を試みること。
３）学習時間の目安：合計60時間

教科書

心とふれあう教育相談 卯月研次・後藤智子 編著 （2015）北樹出版

参考書

生徒指導提要 文部科学省 （2010） 教育図書
学級教育相談入門 有村久春 （2014） 金子書房
臨床心理学 玉瀬耕治・佐藤容子 編著 （2009） 学文社

備考

意欲をもって、しっかりと受講をしてください。

介護等体験の基礎（77355）

後期

Study of Nursing The Handicapped

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	池田綱政 三宅飛翔

授業の概要

◆介護（福祉）に関する視点と動向を歴史的変遷から理解し学びを深める。
◆介護保険で運営されている各施設の特徴及び基本理念と介護実践内容の概要を学ぶ。
◆動画などの資料やディスカッションで、要介護者等の心身の状態やコミュニケーション方法を学ぶ。
◆介護に必要な対象の理解と基本的な介護知識、基本的な援助技術を学ぶ。
◆実際に介護技術などの体験を通して介護者、利用者への相互理解を深める。
◆介護体験に臨む心構えや留意点を把握する。
◆介護の安全確保とリスクマネジメントを学ぶ。

到達目標

１．教職を目指す学生が介護等体験において有益な体験ができるようになる。
２．福祉・介護における法律や高齢者及び障がい者の基礎的な知識について理解し説明できる。
３．簡単な介護技術やコミュニケーションスキルを習得し実践できる。

評価方法

授業中に実施するグループワークや発表内容４０％（到達目標１、３を評価）、授業毎のレポート提出３０％（到達目標２を評価）、期末レポート提出３０％（到達目標１、２、３を評価）で評価する。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

評価には期末レポート、授業毎のレポート提出が必要となります。
授業計画の内容は進捗状況により前後することがあります。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（池田）
第2回	高齢者福祉について（池田）
第3回	高齢者体験（三宅）
第4回	一般教養・マナー（性格判断・コミュニケーションなど）（三宅）
第5回	介護保険の現状（介護保険に関する理解）（池田）
第6回	援助の概論（要介護者に対する援助について）（三宅）
第7回	医学の予備知識（高齢者がもつ一般的な病理説明）（池田）
第8回	精神保健（高齢者の心理）（三宅）
第9回	介護技術１（介護の実例・・・移動、移乗、入浴等）（三宅）
第10回	介護技術２（介護の実例・・・食事、排泄等）（三宅）
第11回	リハビリ・健康管理（介護予防コーディネーション・リハビリについて）（池田）

回数	内容
第12回	レクリエーション（日常におけるリハビリテーションの役割など）（三宅）
第13回	介護施設の現状（一般的な視点から見た介護施設）・施設説明（池田）
第14回	個人情報について（三宅）
第15回	施設等体験に関する留意点・総まとめ（池田）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

宿題や予習の具体的な内容や方法については、授業中に詳しく指示する。

教科書

資料を適宜配布

参考書

チャレンジ介護等体験ーー共生時代における障害理解のエッセンス（ナカニシ出版）

備考

保健科教育法Ⅲ（77402）

前期

Teaching Methods of Health Education, Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	林聡太郎

授業の概要

保健科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識と授業技術について実践的な場で活用できることを目指します。1名もしくは2名で選定された単元の学習指導案を作成し、模擬授業の実践をします。実践者と生徒役の他の履修生からのリフレクションにより模擬授業の振り返りを行います。

【アクティブラーニング】プレゼンテーションとグループディスカッションを取り入れています。
【フィードバック】模擬授業に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

（１）目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）当該教科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

学習指導案作成と模擬授業の実践（80%：到達目標（1）及び到達目標（2）1-3を評価）、模擬授業のリフレクション用紙（20%：到達目標（2）4-5を評価）
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

保健科教育法Ⅰ・Ⅱを修得済で教育実習を履修予定の学生を対象とする。

授業計画

回数	内容
第1回	保健科の授業づくり(1)（学習指導要領における保健科の位置づけについて）
第2回	保健科の授業づくり(2)（専門科目での科学的知識を用いた保健科教材について）
第3回	保健科の授業づくり(3)（模擬授業実践例から学ぶ学習指導案の書き方と教材研究について）
第4回	保健科模擬授業実践(1)（現代社会と健康／2名もしくは2グループ）

回数	内容
第5回	保健科模擬授業実践(2)（生涯を通じる健康／2名もしくは2グループ）
第6回	保健科模擬授業実践(3)（社会生活と健康／2名もしくは2グループ）
第7回	模擬授業実践(1)～(3)の振り返り
第8回	保健科模擬授業実践(5)（中学校保健編と高等学校「現代社会と健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）
第9回	保健科模擬授業実践(6)（中学校保健編と高等学校「生涯を通じる健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）
第10回	保健科模擬授業実践(7)（中学校保健編と高等学校「社会生活と健康」を関連づけて／2名もしくは2グループ）
第11回	模擬授業実践(5)～(7)の振り返り
第12回	体育理論の授業づくり（学習指導要領における体育理論の位置づけについて）
第13回	体育編模擬授業(1)（運動・スポーツの文化的特徴／2名もしくは2グループでパワーポイントを用いて）
第14回	体育編模擬授業(2)（運動・スポーツの学び方／2名もしくは2グループでパワーポイントを用いて）
第15回	体育編模擬授業(3)（豊かなスポーツライフの設計／1名もしくは1グループでパワーポイントを用いて）・保健科教育法Ⅲのまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

学習指導案の作成に必要な情報を得るため、学内の図書館を利用する、新聞を読むなどして教材収集を積極的に行いましょう。

教科書

新・中学校保健体育（平成29年1月 学習研究社）（保体728） 978-4904811207

現代高等保健体育 改訂版［平成29年度改訂］高校用 文部科学省検定済教科書［50大修館/保体304］978-4469662764

参考書

学校保健ハンドブック（第７改定 ぎょうせい）

学校保健の動向（平成30年度版 日本学校保健会）

備考

情報科教育法Ⅱ（77452）

後期

Method of Teaching Information Technology　Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 K
単位数	２．０単位
担当教員	梶浦文夫

授業の概要

情報科教育法１では、高校情報で扱う内容の理解、板書による説明のしかた、授業計画の立て方などを学んだ。情報科教育法２では、高校情報の範囲の残りの部分と、パソコン実習室での授業の計画、模擬授業も実際に体験する。

到達目標

全体目標：情報科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された情報科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

（１）情報科の目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された情報科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における情報科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）情報科の学習評価の考え方を理解している。
４）情報科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）情報科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）情報科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

レポートおよび学習指導案３０％（到達目標（１）および（２））、模擬授業３０％（到達目標（２））、定期試験４０％（到達目標（１）および（２））で総合的に評価する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。
自らが教壇に立って授業をするという意識を持って臨んでください。

情報科教育法Ⅰを既に履修している人のみ履修可能。

授業計画

1週目：講義の目的、特徴、注意点などについての説明
2週目：情報通信ネットワーク１　コミュニケーション手段の発達
3週目：情報通信ネットワーク２　インターネットのしくみ
4週目：情報通信ネットワーク３　インターネットの活用
5週目：授業計画の作成（４）「情報通信ネットワーク」

6週目：板書による説明の練習「情報通信ネットワーク」
7週目：パソコン実習室での授業おける注意点
8週目：通常授業と実習型授業
9週目：情報通信ネットワークをさらに理解するための実習の計画
10週目：模擬授業と講評１　グループ１
11週目：模擬授業と講評１　グループ２
12週目：ディジタル情報と情報の活用をさらに理解するための実習の計画
13週目：模擬授業と講評２　グループ１
14週目：模擬授業と講評２　グループ２
15週目：総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
パソコン実習室での実習を想定した模擬授業など学生が高校教師役となって授業を行う機会が多い。模擬授業の前に、下調べ、指導案の準備などをしておく必要がある。また、授業案は模擬授業の結果を見て何度も何度も改善していくべきものなので、講義の後には指摘された授業案を手直ししなければならない。毎回予習と宿題の指示を行う。

教科書

使用しない。授業中に適宜資料を配布する。

参考書

書籍、Web サイトなど適宜講義中に紹介する。

備考

教育の方法と技術（77551）

後期

Educational Technology

教職科目

年次	１年
対象	27 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	小山悦司

授業の概要

本科目は、教育工学の観点から、教育（視聴覚）メディアの意義と学習支援の方法についての理解を深めるとともに、各種の情報機器や視聴覚教材を活用する能力や、メディア･リテラシーの育成をめざす。また、教育方法学的な観点から、何のために、何を、どのようにして教えるかという学習指導の基礎理論を踏まえて、効果的な指導技術について実践的に修得することをねらいとしている。
本科目は、教育職員免許状の取得に必修とされる「教職に関する科目」である。

【アクティブ･ラーニング】プレゼンテーションとグループ・ワークを取り入れている。

【ＩＣＴを活用した双方向型授業】本授業では、クリッカーを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る試みを実践する。クリッカーとは応答用リモコンのことで、ボタンを押すことにより簡単なテストやアンケートをリアルタイムで集計できることが特長とされている。

到達目標

1.教育の方法論
1）教育方法の基礎的理論と実践を理解している。
2）これからの社会を担う生徒に求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。
3）学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件を理解している。
4）学習評価の基礎的な考え方を理解している。

２．教育の技術
1）話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。
2）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容､教材・教具､授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。

３．情報機器及び教材の活用
1）生徒の興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
2）生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解している。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト20%（到達目標1・2・3を評価）、課題レポートⅠ10%（到達目標1を評価）、課題レポートⅡ10%（到達目標2を評価）、課題レポートⅢ10%（到達目標3を評価）、プレゼンテーション10%（到達目標3を評価）、定期試験40%（到達目標1・2・3を評価）に基づいて成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

教育職員免許状を取得するための必修科目である。免許科目として、授業の水準を維持する必要があるので、教員を目指そうとする目的意識を持って履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育方法の基礎的理論：教育工学の定義と領域

回数	内容
第3回	教育効果の高い指導法とは：主体的・対話的で深い学びに関するワーク（グループワークの実施）
第4回	行動科学を適用したこれからの教育方法：学級・生徒・教員・教室・教材などのシステム化
第5回	行動科学を適用したこれからの学校建築
第6回	教育(視聴覚）メディアの種類と特徴
第7回	教育(視聴覚）メディアの活用による学習支援の方法（クリッカーの使用）
第8回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：インストラクショナル・デザインに基づく活用
第9回	教育(視聴覚）メディアの具体的活用方法：カリキュラム構成理論に基づく活用
第10回	効果的な学習指導のポイント（1）：基礎的な学習指導理論
第11回	効果的な学習指導のポイント（2）：話法・板書などの基礎的技能
第12回	効果的な学習指導のポイント（3）：学習評価の視点を含めた学習指導案の作成
第13回	教育(視聴覚）メディアおよび教材を効果的に活用した学習指導のあり方（プレゼンテーションの実施）
第14回	教育の方法と技術のまとめ（1）： メディア・リテラシー（情報モラルを含む）の育成に向けて
第15回	教育の方法と技術のまとめ（2）：総括

授業外学習

授業開始時に小テストを実施するので、前回の授業についてよく復習しておくこと。また、プレゼンテーションも実施するので、事前準備が必要となる。
なお、課題レポート１・Ⅱ・Ⅲに関する具体的なテーマや作成のポイントについては、授業中に詳しく説明する。
以上の活動や準備等に、合計して６０時間以上の授業外学習が必要となる。

教科書

使用しない。「中学校学習指導要領」、「高等学校学習指導要領解説（総則編）」に関する資料などを適宜紹介する。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

Google Classroomを基本ツールとして活用する。

美術科教育法Ⅱ（77552）

後期

Method of Teaching Fine Art Ⅱ

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 18 N
単位数	２．０単位
担当教員	後藤晋

授業の概要

美術科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

【アクティブラーニング】
問題解決型学習を根幹に、グループディスカッション、プレゼンテーション等、学生の自発的学習を促すよう、ICT等も積極的に導入する。

【フィードバック】
課題（小テスト、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

（１）美術科の目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された美術科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における美術科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）美術科の学習評価の考え方を理解している。
４）美術科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）美術科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）美術科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）美術科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

授業中に実施する小テスト15%［到達目標の（１）（２）］、ディスカッション15%［到達目標の（２）］、プレゼンテーション30%［到達目標の（２）］、レポート40%［到達目標の（１）（２）］の割合で評価し、総合点60点以上（100点満点）を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

問題解決型学習を中心に、学校現場の実情に則した諸問題を体験的に学習していく。
小テストやプレゼン、ディスカッションなど自発的な学習が大切である。

授業計画

回数	内容
第1回	美術と教育〜ハーバード・リードなど
第2回	美術教育の歴史①（西洋編）

回数	内容
第3回	美術教育の歴史②（日本編）
第4回	学習指導要領を読み解く①　（表現・・・絵画・彫刻）
第5回	学習指導要領を読み解く②　（表現・・・デザイン・工芸）
第6回	学習指導要領を読み解く③（鑑賞）
第7回	教材研究①表現１　（絵画・彫刻を中心とした教材）
第8回	教材研究②表現２　（デザイン・工芸を中心とした教材）
第9回	教材研究③鑑賞　（対話型鑑賞を中心とした教材）
第10回	学習指導案の作成①　（表現・・・絵画・彫刻の指導案）
第11回	学習指導案の作成②　（表現・・・デザイン・工芸の指導案）
第12回	学習指導案の作成③　（鑑賞・・・対話型鑑賞を中心とした指導案）
第13回	発達障害と美術教育
第14回	教育現場の現状と問題点
第15回	これからの美術教育への提言

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・次回の授業内容を予告したプリントを予習し、その内容について自分なりの考えを述べることができるようにする（28H）。プレゼン作成（24H）。レポート作成（8H）。

教科書

中学校学習指導要領解説（文科省）

参考書

授業中に随時紹介する

備考

教育実習Ⅰ（事前事後指導）（77603）

通年

Student Teaching Ⅰ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	１．０単位
担当教員	唐川千秋 高木加奈絵

授業の概要

事前指導では、教育実習に関する基礎的理解を深めるとともに、学校教育活動の一般的事項を理解し、教育実践に対する心構えと課題意識を養うことを目的としている。また、事後指導では実習校における現場実習の終了後、教育実践の成果を統合して、教員としての応用的・創造的な態度や能力を養成することをねらいとしている。
・教育実習の目的および内容・方法について理解し説明できる。
・学習指導案の作成等について理解し説明できる。
・模擬授業等の実施により、実践的な指導力を身につける。

【アクティブラーニング】作成した指導案をもとに模擬授業を行い、受講生間で相互評価・省察を行う。
【フィードバック】
・課題レポート、学習指導案について、添削・解説を行う。
・模擬授業を行い、受講生間での相互評価、教員による指導を行う。

到達目標

一般目標：事前指導では教育実習生として学校の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

到達目標
1） 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
2） 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。

評価方法

レポート40%（到達目標1）、教育実習1 記録簿20%（到達目標1・2）、定期試験40%（到達目標1）により総合的に評価する。
総合計60点以上を合格とする。

注意事項

「教育実習」の履修基準を充足しておくこと。

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。履修カルテに載せているルーブリックを参考にして、各段階で身につけておくべき資質・能力を目標にして、しっかりした目的意識をもって履修しなければならない。
「教育実習I」の履修状況が不良のときは、現場実習への参加を認めないことがある。
※ 下記以外に、後期にも模擬授業を行う。

授業計画

回数	内容
第1回	教育実習序論・模擬授業1（唐川・高木）
第2回	教育実習の目的および内容・方法（小山・赤木・唐川）
第3回	生徒理解（カウンセリング・マインド）（唐川） 【課題レポート】「自己分析」
第4回	教育法規（同和教育を含む）（高木） 【課題レポート】「人権教育」

回数	内容
第5回	学校教育の現状と課題１（唐川・高木）
第6回	学校教育の現状と課題２（教育実習校から講師を招聘）（唐川・高木） 【課題レポート】「学校教育の課題への取り組み」
第7回	障害をもつ児童・生徒の理解（唐川） 【小テスト】障害をもつ児童・生徒の指導
第8回	模擬授業2（唐川・高木） 予習：模擬授業の指導案作成
第9回	模擬授業３（唐川・高木） 予習：模擬授業の指導案作成
第10回	学習指導案の作成1（教科別）（唐川・高木） 予習：模擬授業の指導案作成
第11回	学習指導案の作成2（教科別）（唐川・高木） 予習：模擬授業の指導案作成
第12回	学習指導案の作成3（教科別）（唐川・高木） 予習：模擬授業の指導案作成
第13回	夏期休暇前模擬授業（唐川・高木）
第14回	教育実習実施後の評価および課題の検討（唐川・高木）
第15回	総合反省会（実習生、実習校教員、大学側教員が参加）（唐川・高木）

授業外学習

学習時間の目安：講義内容の復習、課題レポート作成を中心にして各回4時間

その他、以下の4点に十分な時間をかけて準備すること。
・教師にふさわしい一般教養の資質を高めるように、専門に偏らず幅広い読書・思考をする。
・学習指導要領、教科書、参考書等にもとづいて、担当教科の指導案を作成する。
・模擬授業に備えて、リハーサルを行い、指導案を修正する。
・教育実習後、振り返りシートを作成して、教育実習の成果・課題を見つける。

教科書

使用しない。「教育実習I」のテキストとプリントを配布する。

参考書

授業中に指示する。

備考

教育実習Ⅱ（現場実習Ａ）（77604）

通年

Student Teaching Ⅱ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	３．０単位
担当教員	唐川千秋 高木加奈絵

授業の概要

教職課程において、これまで受講してきた成果を発揮して、実習協力校の中学校または高等学校で、観察・参加・授業実習などを通じて、教職の体験を積み、教員となるための基礎的な態度や能力を養成することを目的とする。前期に履修登録を行うが教育実習のスケジュールの都合上、評価は後期末になる。

・見学実習により、教育実習に対するレディネスを高める

・教員として最低限必要とされる実践的な指導力を身につける。

・実地体験により、教職への能力・適性について自己確認を行う。

到達目標

（1）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標：生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標

1）生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

2）指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。

3）教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。

4）学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

（2）学習指導及び学級経営に関する事項

一般目標：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識･理論･技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標

1）学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。

2）学習指導に必要な基礎的技術（話法･板書･学習形態･授業展開･環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

3）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。

4）教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。

評価方法

実習記録、見学レポート、観察態度、振り返りシート等により到達目標（1）（2）について総合的に評価する。評価の比率は、それぞれ40%、40%、20%を基準とする。合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

教育実習（現場実習）そのものが、授業外学習であるので、入念な準備と体調管理のもとに全力で取り組むこと。

授業計画

私立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動

　※観察実習予定の１年前に現場実習校での先輩の教育実習の様子を観察し、実習のイメージをより具体化する。

公立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

公立中学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

事前オリエンテーション（実習校にて実施）
オリエンテーション（実習校にて実施）、開講式、教育方針説明、実習校担当教員ならびに実習生紹介及び打ち合わせ
実習生授業実施準備
学習指導案等作成指導
実習生授業観察及び授業実施１
実習生授業観察及び授業実施２
実習生授業観察及び授業実施３
実習生授業観察及び授業実施４
実習生代表研究授業
総合討論
反省会
レポート提出

授業外学習

実習記録および見学レポートの提出を求める。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

教育実習Ⅲ（現場実習Ｂ）（77605）

通年

Student Teaching Ⅲ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 18 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	１．０単位
担当教員	唐川千秋 高木加奈絵

授業の概要

教職課程において、これまで受講してきた成果を発揮して、実習協力校の中学校または高等学校で、観察・参加・授業実習などを通じて、教職の体験を積み、教員となるための基礎的な態度や能力を養成することを目的とする。前期に履修登録を行うが教育実習のスケジュールの都合上、評価は後期末になる。

・見学実習により、教育実習に対するレディネスを高める

・教員として最低限必要とされる実践的な指導力を身につける。

・実地体験により、教職への能力・適性について自己確認を行う。

到達目標

（1）観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項

一般目標：生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校の生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解する。

到達目標

1）生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。

2）指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。

3）教育実習校の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。

4）学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。

（2）学習指導及び学級経営に関する事項

一般目標：大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識･理論･技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を修得する。

到達目標

1）学習指導要領及び生徒の実態等を踏まえた適切な学習指導案を作成し、授業を実践することができる。

2）学習指導に必要な基礎的技術（話法･板書･学習形態･授業展開･環境構成など）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。

3）学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。

4）教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。

評価方法

実習記録、見学レポート、観察態度、振り返りシート等により到達目標（1）（2）について総合的に評価する。評価の比率は、それぞれ40%、40%、20%を基準とする。合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の申請に必須な科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

教育実習（現場実習）そのものが、授業外学習であるので、入念な準備と体調管理のもとに全力で取り組むこと。

授業計画

私立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動

　※観察実習予定の１年前に現場実習校での先輩の教育実習の様子を観察し、実習のイメージをより具体化する。

公立高等学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

公立中学校：学校概要等についての講話、校内見学・授業観察・課外活動観察

事前オリエンテーション（実習校にて実施）
オリエンテーション（実習校にて実施）、開講式、教育方針説明、実習校担当教員ならびに実習生紹介及び打ち合わせ
実習生授業実施準備
学習指導案等作成指導
実習生授業観察及び授業実施１
実習生授業観察及び授業実施２
実習生授業観察及び授業実施３
実習生授業観察及び授業実施４
実習生代表研究授業
総合討論
反省会
レポート提出

授業外学習

実習記録および見学レポートの提出を求める。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

特別活動の指導法（77606）

前期

Teaching Method of Special Activities

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 24 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	佐溝理

授業の概要

特別活動は、各教科や道徳、総合的な探究の時間とともに、教育課程に位置づけられた学校教育の重要な柱です。中・高の特別活動には学級（ホームルーム）活動、生徒会活動、学校行事があります。これらの活動では、集団や社会の形成者としての見方や考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いの良さや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、多様な他者と協働する集団活動の意義や活動上、必要になることを理解し、行動の仕方を身に着けることや、解決するための話し合い、合意形成を図り、意思決定することができること、また主体的に社会に参画し、自己実現を図る態度を養うことを目指しています。

現場の教師には、自分の教科の学習指導はもちろん、特別活動の「教科書の無い」授業を企画し、実践する力が求められます。

この授業では、中・高における特別活動の内容とその具体的事例について考察するとともに、特別活動の計画や学習指導案を作成し、模擬授業等を取り入れて、特別活動の指導に当たる教師として必要な力量の育成を目的としています。

到達目標

（１）特別活動の意義、目標及び内容

一般目標：特別活動の意義、目標及び内容を理解する。

到達目標：

１）学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。

２）教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連を理解している。

３）学級活動・ホームルーム活動の特質を理解している。

４）児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解している。

（２）特別活動の指導法

一般目標：特別活動の指導の在り方を理解する。

到達目標：

１）教育課程全体で取り組む特別活動の指導の在り方を理解している。

２）特別活動における取組の評価・改善活動の重要性を理解している。

３）合意形成に向けた話合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。

４）特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。

評価方法

教師を志すものとして、受講への積極的態度は当然なので、欠席・遅刻・早退・講義中の居眠り等は減点対象とします。受講前レポート（到達目標２を評価）、受講後小論文（到達目標１を評価）、講義ごとの課題レポート（到達目標１・２を評価）で６０％、２回の確認テスト（到達目標１・２を評価）と作成した指導案（到達目標２を評価）で４０％の割合で評価します。

合計６０点以上で合格としますが、期日までに受講前レポートの提出がない場合は、受講できません。

注意事項

本科目は、教員免許取得のための必修科目です。

集中講義による開講となるので、全ての講義への出席が原則です。

将来、教職を志す強い意志を持った学生の主体的・積極的な学習態度を期待します。

また、講義中に適宜、特別活動で展開できるアクティビティを紹介します。

授業計画

1 オリエンテーションと特別活動の全体目標について

2 学校教育の現状と課題 特別活動と教育課程の関連について

3 特別活動の基本的性格、教育的意義および他領域との関連について

4 特別活動の特質について（学級・ＨＲ活動、委員会活動、学校行事）

５ 理論確認テスト① 指導計画の作成と内容の取り扱いについて
６ 特別活動の学習指導案について
７ 学級活動・ＬＨＲ活動の学習指導案Ａの作成（１）
８ 学級活動・ＬＨＲ活動の学習指導案Ａの作成（２）と内容検討
９ 学校行事年間計画について
１０ 学校行事年間計画の作成について
１１ 生徒会活動年間計画および作成について
１２ 学校行事年間計画・生徒会活動年間計画の発表と内容検討
１３ 学生によるＬＨＲ模擬授業の実施と内容検討（１）
１４ 学生によるＬＨＲ模擬授業の実施と内容検討（２）
１５ 理論確認テスト② ＬＨＲ学習指導案Ｂ作成と講義のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

受講前レポート 中学・高校時代に経験した特別活動（主に学校行事）のレポート作成
宿題 学習指導案やレポートの作成および教材作成
受講後小論文 特別活動に関する小論文作成

教科書

教科書 高等学校学習指導要領解説－特別活動編－平成30年7月 文部科学省 978-4487286355
また、毎時間配布の講師作成のレジュメにより講義・演習等を行います。

参考書

講義の中で適宜、紹介します。

備考

集中講義は４日間設定します。また台風等での臨時休講を考慮し、１日の予備日を設定します。
なお、第１３回、１４回の講義時に行う模擬授業は、授業実施者をこちらから指名します。

生徒・進路指導論（77607）

前期

Principles and Methods of Student Guidance and Career Advice

教職科目

年次	２年
対象	26 ～ 24 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	福本まゆみ

授業の概要

【生徒指導の理論及び方法】
生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

【進路指導及びキャリア教育の理論及び方法】
進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。
進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。

【フィードバック】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】
本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開することがある。
・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出すること。
・必要な資料、確認しておくべきWebサイトなどを掲示する。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

【生徒指導の理論及び方法】
（１）生徒指導の意義と原理
一般目標：生徒指導の意義や原理を理解する。
到達目標：
１）教育課程における生徒指導の位置付けを理解している。
２）各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解している。
３）集団指導・個別指導の方法原理を理解している。
４）生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方と違いを理解している。

（２）児童及び生徒全体への指導
一般目標：すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。
到達目標：
１）学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性を理解している。
２）基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解している。
３）児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方を例示することができる。

（３）個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導
一般目標：児童及び生徒の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解する。

到達目標：
１）校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容を理解している。
※高等学校教諭においては停学及び退学を含む。
２）暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の定義及び対応の視点を理解している。
３）インターネットや性に関する課題、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や、専門家や関係機関との連携の在り方を例示することができる。

【進路指導及びキャリア教育の理論及び方法】
（１）進路指導・キャリア教育の意義及び理論
一般目標：進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解する。
到達目標：
１）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを理解している。
２）学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示することができる。
３）進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方を理解している。

（２）ガイダンスとしての指導
一般目標：全ての児童及び生徒を対象とした進路指導・キャリア教育の考え方と指導の在り方を理解する。
到達目標：
１）職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義を理解している。
２）主に全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解している。

（３）カウンセリングとしての指導
一般目標：児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解する。
到達目標：
１）生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示することができる。
２）キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。

評価方法
授業時間中に毎回実施する小テスト20%
学習課題【レポート・プレゼン】30%
定期試験50%
総合計60点以上を合格とする。
なお、課題レポートと達成目標の関係は以下のとおりである。

【生徒指導の理論及び方法】
（１）生徒指導の意義と原理（第１・２・３・13回）
（２）児童及び生徒全体への指導（第４・５・14・15回）
（３）個別の課題を抱える個々の児童及び生徒への指導（第8・9・10・11回）

【進路指導及びキャリア教育の理論及び方法】
（１）進路指導・キャリア教育の意義及び理論（第6回・13回）
（２）ガイダンスとしての指導（第７・14・15回）
（３）カウンセリングとしての指導（第8・12回）

注意事項
本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

本授業は、真に教師を志す学生の皆さんのための授業である。
児童生徒が自己実現を図りながら、個々の幸福を追求するとともに、社会の発展をも追及する大人へと成長できるよう適切な指導ができる教師が求められている。その指導者になるためには、児童生徒の模範となる姿勢で積極的に学び行動してもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の目的、概要及び計画についてのガイダンス

回数	内容
第2回	生徒指導上の諸問題の現状と課題について
第3回	生徒指導の意義と課題
第4回	生徒指導の原理と人格の発達の課題
第5回	生徒理解の方法
第6回	生徒指導と進路指導Ⅰ（生き方の指導としての進路指導、進路指導の内容と組織）
第7回	生徒指導と進路指導Ⅱ（中・高等学校等の進路指導の特徴と留意点、キャリア・パスポートの活用、学校における進路指導の課題）
第8回	不登校支援への支援の在り方
第9回	事例研究Ⅰ（暴力行為・懲戒・体罰等）
第10回	事例研究Ⅱ（いじめなど）
第11回	事例研究Ⅲ（インターネット・携帯等）
第12回	事例研究Ⅳ（進路相談（カウンセリング含む）・進路情報の提供・ボランティア・就業体験等）
第13回	生徒指導・進路指導と法律
第14回	生徒指導・進路指導の機能を生かした教材開発及び教科外の教育活動
第15回	生徒指導・進路指導の機能を生かした学校組織と運営、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

1　予習

（1）新聞、インターネット等で、常にアンテナを高くして生徒指導に関するニュースなどをチェックして記録しておくこと。

（2）学習課題については、本やインターネット等で事前に調べ、次回にはプレゼンテーションできるようにしておくこと。

2　復習

（1）授業後、振り返りをして、学習内容を着実なものにしておくこと。

（2）学習内容で興味・関心を抱いた項目については、積極的に調べたり、質問したりすること。

3　課題内容

（1）課題のレポート・プレゼンシートを提出すること。期限を厳守して必ず提出すること。

教科書

教科書は使用しない。随時プリントを配付する。

参考書

生徒指導要領（文科省）※文科省のサイトからダウンロードできるので随時参考にすること。

備考

道徳の理論と指導法（77608）

後期

Theory and teaching methods of moral

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 24 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	福本まゆみ

授業の概要

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、グループ・ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れる。

【フィードバック】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】
本授業では、Google Classroomを活用して双方向型授業を展開することがある。
・課題はGoogle Classroomを通じて提示し、提出すること。
・必要な資料、確認しておくべきWebサイトなどを掲示する。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroomのストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

（１）道徳の理論
一般目標：道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）道徳の本質（道徳とは何か）を説明できる。
２）道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解している。
３）子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
４）学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

（２）道徳の指導法
一般目標：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。
到達目標：
１）学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。
２）道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
３）道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
４） 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
５）道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
６）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

評価方法

授業時間中に毎回実施する小テスト２0%、
学習課題【レポート・プレゼン】３0%
定期試験50%により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

なお、課題レポートと達成目標の関係は以下のとおりである。
（１）道徳の理論（第１～9回）
（２）道徳の指導法（第10～15回）

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

本授業は、真に教師を志す学生の皆さんのための授業である。
児童生徒がよりよく生きるために、適切な指導ができる教師が求められている。その指導者になるためには、児童生徒の模範となる姿勢で積極的に学び行動してもらいたい。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の目的、概要及び計画についてのガイダンス
第2回	道徳教育の現状と課題について
第3回	道徳教育の意義
第4回	人間観・教育観・学校観
第5回	道徳とは何か⑴ 道徳の歴史①（西洋）
第6回	道徳とは何か⑴ 道徳の歴史②（日本）
第7回	道徳とは何か⑵ 道目と道徳教育
第8回	道徳とは何か⑶ 道徳と心理学
第9回	道徳とは何か⑷ 道徳性の発達
第10回	「よさ」の構造　「よさ」を求める基本的要求と道徳
第11回	道徳の指導法⑴ 道徳教育の指導計画と道徳科学習指導案　道徳性主体性の確立に向けて
第12回	道徳の指導法⑵ 道徳科における指導方法と評価
第13回	模擬授業⑴ 教材の特徴を踏まえた授業設計
第14回	模擬授業⑵ 振り返りと授業改善
第15回	まとめ　「よりよく生きる」ということ

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

１　予習
（1）本、新聞、インターネット等で、常にアンテナを高くして道徳に関することについて情報収集しておくこと。
（2）学習課題については、本やインターネット等で事前に調べ、次回にはプレゼンテーションできるようにしておくこと。

２　復習
（1）授業後、振り返りをして、学習内容を着実なものにしておくこと。
（2）学習内容で興味・関心を抱いた項目については、積極的に調べたり、質問したりすること。

３　課題内容
（1）課題レポート・プレゼンシート等を提出すること。期限を厳守して必ず提出すること。

教科書

『中学校学習指導要領』第3章　道徳
『中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編』文部科学省

参考書

文部科学省の「道徳教育アーカイブ」専用サイトなどを随時参考にすること。

備考

保健科教育法Ⅳ（77609）

後期

Teaching Methods of Health Education, Ⅳ

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 22 W,W
単位数	２．０単位
担当教員	林聡太郎

授業の概要

保健科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの応用として、前後半に分けて授業内容を展開します。前半では、学習指導要領、中学校保健分野・高等学校「保健」の重要なポイントについてより深く読み込み、その内容と指導の方法についてディスカッションを行います。後半では、保健科教育法Ⅲで実施されなかった単元あるいは実習先で行うであろう単元をとりあげ、これまで学んだ知識を活かした学習指導案の作成と実践・振り返りを行い、教育実習に向けた態度と知識の定着を目指します。

【アクティブラーニング】プレゼンテーションとグループディスカッションを取り入れています。
【フィードバック】模擬授業に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ
（１）目標及び内容
一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。
到達目標：
１）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
２）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
３）当該教科の学習評価の考え方を理解している。
４）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
５）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

（２）当該教科の指導方法と授業設計
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
到達目標：
１）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
２）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
３）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
４）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。
５）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

評価方法

保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返りテスト（50%：到達目標（1）を評価）、学習指導案作成と模擬授業の実践（50%：到達目標（2）を評価）
総合計60点以上を合格とする

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

保健科教育法Ⅰ・Ⅱを修得し、次年度、教育実習を履修する人を対象とします。

授業計画

回数	内容
第1回	保健科教育法Ⅳの進め方について（オリエンテーション）
第2回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(1) 学習指導要領

回数	内容
第3回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(2) 心神の機能の発達と心の健康
第4回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(3) 健康と環境
第5回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(4) 傷害の防止
第6回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(5) 健康な生活と疾病の予防
第7回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(6) 現代社会と健康
第8回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(7) 生涯を通じる健康
第9回	保健科教育法Ⅰ・Ⅱの振り返り(8) 社会生活と健康
第10回	総合演習(1) 総合演習の進め方・学習指導案の作成
第11回	総合演習(2) 模擬授業の実践・振り返り（現代社会と健康）
第12回	総合演習(3) 模擬授業の実践・振り返り（生涯を通じる健康）
第13回	総合演習(4) 模擬授業の実践・振り返り（社会生活と健康）
第14回	総合演習(5) 模擬授業の実践・振り返り（体育理論）
第15回	総まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

授業時に開設した内容は、確認テストで定着を確認します。配布した問題を各自で予習すると共に、復習を積み重ねておくこと。日頃から新聞等を通して時事ニュースに目を向けておくこと。積み重ねの授業外学習が、模擬授業の導入部分や小論文を書く際に必ず役に立ちます。

教科書

中学校学習指導要領解説 保健体育編（平成20年9月 文部科学省）978-4827815603

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編（平成21年12月 文部科学省）978-4827815689

新・中学校保健体育（平成29年1月 学習研究社）978-4904811207

現代保健体育 改訂版（平成29年4月1日 大修館書店）978-4469662764

参考書

学校保健ハンドブック（第７改定 ぎょうせい）

学校保健の動向（平成30年度版 日本学校保健会）

備考

特別支援教育（77610）

前期

Special Needs Education

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 25 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	１．０単位
担当教員	仲矢明孝

授業の概要

本講義では、特別支援教育に関する基礎的な内容を教授する。発達障害や知的障害、環境要因に基づく特別な教育的支援を要する子どもの心理特性や学習面・生活面の課題､及び、それらを踏まえた教育課程や支援の方法等について概説する。

【アクティブラーニング】
グループディスカッション（討議含む）を取り入れる。

【フィードバック】
授業の中でレポート内容に対するフィードバックを行う。

到達目標

（１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解
一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。
到達目標：
１）インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
２）発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
３）視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。

（２）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法
一般目標：特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。
到達目標：
１）発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。
２）「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。
３）特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
４）特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。

（３）障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援
一般目標：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。
到達目標：
１）母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。

評価方法

到達目標
（１）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解
（２）特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法
（３）障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援

評価方法
授業中又は授業後出題する課題レポート50%（到達目標(1)(2)(3)を評価）、レポート試験50%（到達目標(1)(2)(3)を評価）により成績を評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。
より良い学習環境とするため、受講中の態度に留意すること。

授業計画

回数	内容
第1回	特別支援教育の理念と仕組み
第2回	特別な支援を要する子どもの理解（学習障害、注意欠如・多動性障害他）
第3回	特別な支援を要する子どもの理解（自閉症スペクトラム障害他）
第4回	特別な支援を要する子どもの支援（授業・指導における配慮等）
第5回	個別の教育支援計画と個別の指導計画
第6回	「通級による指導」と自立活動の指導
第7回	特別な教育的ニーズのある子どもの課題と支援
第8回	組織的支援体制の構築（特別支援教育コーディネーターと校内委員会）
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間
・次回の授業内容を確認し、示されたキーワード等についてその意味等を調べておくこと。
・復習として課題レポートを数回出題する。

教科書

使用しない。授業において資料を配付する。

参考書

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月文部科学省）
小学校学習指導要領解説総則編（平成29年6月文部科学省）
特別支援学校学習指導得要領解説総則等編（平成21年6月文部科学省）

備考

総合的な学習の時間の指導法（77611）

前期

Teaching Method of the Period for Integrated Studies

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 25 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	原田省吾

授業の概要

「総合的な学習の時間」の原理や性格を明らかにするとともに、各学校における位置づけやねらい、計画、評価方法を学ぶ。さらに、各学校における実践例の分析・検討を通して、「総合的な学習の時間」の展開に必要なスキルを習得し、教員の視点に立って「総合的な学習の時間」を計画・立案できることを目指す。

【アクティブラーニング】グループワーク、グループディスカッションを取り入れている。

【フィードバック】課題（小レポート、指導計画案）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

全体目標：総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

（１）総合的な学習の時間の意義と原理
一般目標：総合的な学習の時間の意義や、各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
到達目標：
１）総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割について、教科を越えて必要となる資質・能力の育成の視点から理解している。
２）学習指導要領における総合的な学習の時間の目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点を理解している。

（2）総合的な学習の時間の指導計画の作成
一般目標：総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
到達目標：
１）各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性と、その具体的な事例を理解している。
２）主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性とその具体的な事例を理解している。

（３）総合的な学習の時間の指導と評価
一般目標：総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。
到達目標：
１）探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てを理解している。
２）総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

評価方法

授業時に指示した提出課題２０％（到達目標１を評価）、指導計画案作成課題４０％（到達目標１、２を評価）、試験４０％（到達目標１、２を評価）に基づいて総合的に評価し、総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教員免許取得のための必修科目です。
将来、教職を志す者としての主体的・積極的な授業参加を期待します。

授業計画

回数	内容

回数	内容
第1回	本授業の概要、目標、授業計画等について説明する
第2回	「総合的な学習の時間」の成立背景と現状について説明する
第3回	「総合的な学習の時間」の学習原理について説明する
第4回	「総合的な学習の時間」の教育課程への位置づけ、ねらいと意義について説明する
第5回	「総合的な学習の時間」のテーマ設定と各教科・他領域との関連について、実践事例をもとにしながら説明する
第6回	「総合的な学習の時間」の計画について、実践事例をもとにしながら説明する
第7回	「総合的な学習の時間」の単元構成について、実践事例をもとにしながら説明する
第8回	「総合的な学習の時間」の評価について、実践事例をもとにしながら説明する
第9回	「総合的な学習の時間」における指導技術について説明する
第10回	各学校における「総合的な学習の時間」の実践事例について分析・検討する（１）
第11回	各学校における「総合的な学習の時間」の実践事例について分析・検討する（２）
第12回	各学校における「総合的な学習の時間」の実践事例について分析・検討する（３）
第13回	「総合的な学習の時間」の指導計画案を作成する
第14回	作成した「総合的な学習の時間」の指導計画案を相互に検討することで改善を図り、完成を目指す
第15回	完成した「総合的な学習の時間」の指導計画案を発表し、研究協議を行う

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間
・授業内容を復習し定着を図ること。
・内容のまとまりごとに確認レポートの提出課題がある。
・指導計画案の作成課題がある。

教科書

文部科学省『中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』
文部科学省『高等学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』

参考書

文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）』
文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（高等学校編）』
等、授業中適宜紹介する。

備考

教科内容構成学（美術）（77612）

前期

School Subject Content Education (art)

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 25 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	上田久利

授業の概要

心象表現（絵画、彫刻分野）と機能表現（デザイン、工芸）にいて学ぶ。特に感覚養成に視点を置き、感覚訓練の方法に重きを置く。
絵画分野においては水彩絵の具を用い色彩表現を実践し豊かな色彩が使用できるようにする。
彫刻分野では粘土、石膏、木などの素材に触れ基礎造形をとおし構成訓練とイメージ訓練を行う。
デザイン分野では絵画で行った色彩からＰＣＣＳ（日本色研色彩理論）のトーンを学び構成練習を行う。
工芸分野では工芸の多様さを紹介し岡山県の備前焼や備中漆の作品鑑賞や実習を行う。

【アクティブラーニング】
美術は作品制作を行うことが中心であるが、評価の方法が問題である。評価の方法を検討しながら、ロールプレイング行う。

【フィードバック】
課題作品のプレゼンテーションをおこない、教員の作品講評、指導からどのようにフィードバックするかを学ぶ。

到達目標

1.美術科の各分野（絵画、彫刻、デザイン、工芸、鑑賞）の授業から造形感覚を養い、また授業評価を行う実践力を養成するとともに、教師にとって必須である共感性を培う。

評価方法

授業に出席し積極的に制作に取り組み30%、授業における作品の目標達成度30%、課外の作品、課題レポート提出および目標達成度40%で評価し（到達目標1）、 総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

実習を伴うので、ぞうきんタオルなどの持参、また、絵の具や粘土をあつかうことができる服装の準備をする。

授業計画

回数	内容
第1回	（1）教科内容構成学とは （2）美術教育の目的 （３）美術教育の実践力をつける
第2回	鉛筆による表現　（1）明度段階　（２）立方体
第3回	立方体の展開図から創造性を養う
第4回	自画像の鑑賞 自己を見つめる自画像 不透明水彩（ガッシュ）による表現
第5回	自然を描く（木を描く）
第6回	ねじれた形から表現へ
第7回	ねじれた形、木を彫る
第8回	作品評価の方法
第9回	粘土による造形（１）粘土を楽しむ 触覚ワークショップの展開

回数	内容
第10回	粘土による造形（２）分割再構成
第11回	粘土による造形（３）乾漆、陶芸
第12回	色彩を学ぶ（ＰＣＣＳから）
第13回	鑑賞（絵絵画・彫刻）
第14回	鑑賞（デザイン・工芸）
第15回	作品評価の方法

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間

限られた授業時間では各分野の作品は完成しないので、授業内で完成しなかったり、作品をグレードアップする場合には授業外学習となる。

教科書

特に使用しないが各自が中学生高校生の時使用した教科書を持参すること。

配色カード（ＰＣＣＳ）

参考書

中学校学習指導要領解説「美術編」文部科学省

高等学校学習指導要領解説「美術編」文部科学省

備考

教科内容構成学（理科）（77613）

後期

School Subject Content Education (science)

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 25 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	山本健治

授業の概要

「教科及び教科の指導法に関する科目における、複数の事項を合わせた内容に係る」科目群の一つである。
４概念の各々（例えば、その一つ生命）と強い関係にある科目（生物）の学習において、同じ概念と弱い関係にある別科目を意識した教授展開について学ぶ。
生徒をアクティブ学習へと導くための教授手法を体得する場として、仮説授業の取り組み（受講者自身が仮説授業を立案し、演示する実践）を含む。

【アクティブ・ラーニング】
視聴覚の話題をもとに、基本的なテーマを討論とワークシート上で考えていく。

【フィードバック】
ワークシートによる確認と反転学習の解答提示の間を2週かけて巡り、身近な現象と教授法の理解、及び概念のイメージ形成を図っていく。

到達目標

理科の初等中等教育に設けられた４概念である「エネルギー」、「粒子」、「生命」、「地球」の科目横断的認識に配慮しつつ、各科目独自の系統的役割を理解した教材配置の仕方を学ぶ。生徒が各概念間や科目間に存する境界領域と重複領域を学びの中に見出せるよう、目標や具体例を提示する事例を示す。複数概念を含意した多面的教材を活用する実践テーマに取り組む。これによって、将来指導する生徒が科目間の境界を曖昧に捉えることなく、科目の系統性を学べるようにする。

評価方法

レポート、学習指導要領作成、ショート模擬授業実践を合わせた総合評価を行う〔具体的には、ワークシートと反転学習課題のレポート（６０点）および確認テストの成績（４０点）を基本に、全体的、構成的な評価を行う〕。

注意事項

本科目は、教育職員免許状の必修科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

自分用の受講ノートを用意し、常時テイクノートして活用してほしい。
２週に一度、次時までの反転学習課題をテキストとプリントで指示する。
プリントは授業形態上、受講ノートとともに「書き込む参考書」として活用すること。２週単位で綴じ、ノート用紙を
毎時挿入するなどして有効に活用すること。

授業計画

回数	内容
第1回	理科教師になるには
第2回	生徒の「自然・科学」と理科教育
第3回	教科内容構成（理科）で学ぶもの
第4回	自然科学の特質と理科の４概念
第5回	仮説授業定着化の取り組み
第6回	理科教育における実験／観察の目的と意義
第7回	指導と評価／記録の計画

回数	内容
第8回	物理概念と他概念の関係（ショート授業実践指導を含む）
第9回	化学概念と他概念の関係（ショート授業実践指導を含む）
第10回	生物概念と他概念の関係（ショート授業実践指導を含む）
第11回	地学概念と他概念の関係（ショート授業実践指導を含む）
第12回	授業／教材研究 ⑴概念を明確にする教材
第13回	指導計画と学習指導案作成 ⑴テーマを導く指導案
第14回	授業／教材研究 ⑵概念を深める教材
第15回	指導計画と学習指導案作成 ⑵テーマを普遍化する指導案　（定期試験は実施しない）

授業外学習

学習時間の目安：合計６０時間（15週）
【フィードバック（２週セットで授業と一体）】
・１週目（４時間）：ノートに「身近な現象」の理解を要点記入、または補足記入し、ワークシートへ転記する。
・２週目（４時間）：（１週目後に）成果の応用へ計画を巡らせ（反転学習し）た上で、まとめをノートに整理して、課題プリントに解答する。
・３週目以降は（次のテーマについて）１週目と同様の取り組みをする。
（以上、2週1セットの繰り返しを通じて、計5回前後のワークシート・レポート評価を含む）

教科書

中学校／高等学校学習指導要領のうち理科の部 文部科学省（オンライン最新版）

参考書

学習指導要領解説 理科編（中高オンライン最新版）／教師のための「教える技術」向後千春 明治図書978-4-18-119213-6／アクティブラーニング入門 小林昭文 産業能率大学出版部978-4-３8-205723-4

備考

教科内容構成学（情報）（77614）

前期

School Subject Content Education (information sicence)

教職科目

年次	３年
対象	25 ～ 25 K,N,B,Y,W,W,M
単位数	２．０単位
担当教員	笠井俊信

授業の概要

初等中等教育で習得すべき情報活用力について、実践的な課題解決を通して理解させる。その上で高等学校学習指導要領の記述に基づいて、高等学校共通教科「情報」で達成すべき教育目標の構造について理解させる。また、これらの教育目標を効果的に達成させるための教材作成と授業構想について、実践的に学ばせる。

【アクティブラーニング】問題解決型学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】課題（レポート，プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

（1）初等中等教育で習得すべき情報活用力の全体像を理解した上で、高等学校共通教科「情報」で達成すべき教育目標の構造について理解する。
（2）これらの教育目標を効果的に達成させるための教材作成と授業構想についての実践的な能力を身に付ける。

評価方法

授業での取り組みの態度40%（到達目標(2)を評価）、授業で課す演習課題60%（到達目標(1)(2)を評価）

注意事項

本科目は，高等学校「情報」の教員になるための資格免許科目であることから、一定の水準が要求される。しっかりした目的意識を持って履修しなければならない。

授業計画

回数	内容
第1回	初等中等教育で習得すべき情報活用力
第2回	情報活用力の実践演習
第3回	情報活用力の評価
第4回	高等学校学習指導要領「情報編」の概要
第5回	学習指導案の書き方
第6回	学習指導案の記述演習
第7回	情報の科学的理解の内容と指導方法
第8回	情報の科学的理解のための教材開発
第9回	情報の科学的理解のための授業設計演習
第10回	設計授業の評価・分析・改善
第11回	情報社会に参画する態度の内容と指導方法
第12回	情報社会に参画する態度のための教材開発
第13回	情報社会に参画する態度のための授業設計演習
第14回	設計授業の評価・分析・改善

回数	内容
第15回	授業研究の意義と方法

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・出された課題に対して、情報活用力を意識し、必要な情報の収集、多様な情報を分析・評価・解釈し、自分の考えを深めて、適切な情報手段を活用して表現すること。

教科書

使用しない。

参考書

高等学校学習指導要領解説「情報編」、文部科学省

必要に応じて適宜配布する。

備考